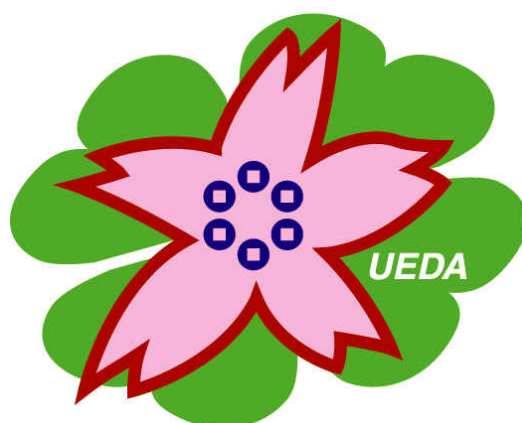


# 第二次 上田市障害者基本計画 ( 答申案 )



平成 26 年 1 月 17 日

上田市障害者基本計画策定委員会

## 上田市障害者基本計画について

- 1．計画策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 P
- 2．計画の位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 P
- 3．計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 P

## 障害者施策に関わる現状と課題

- 1．障害者施策をめぐる国、県の動向・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 P
- 2．上田市の障害者の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7 P  
【手帳所持者について】  
【障害者の就労状況】
- 3．障害者施策に対する市民意識とニーズ・・・・・・・・・・・・ 14 P  
【障害者意向調査の概要】  
【障害者等関係団体懇談会等】
- 4．上田市の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24 P

## 計画の基本的な考え方

- 1．基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 P
- 2．基本的な視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26 P
- 3．計画の推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27 P
- 4．重点施策・事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29 P

## 分野別施策

1. 生活支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33P
  - (1) 相談支援体制の構築
  - (2) 障害福祉サービスなどの充実
  - (3) 障害児支援の充実
2. 保健・医療・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41P
  - (1) 障害の原因となる生活習慣病の発症予防と重症化予防の推進
  - (2) 精神保健・医療・福祉の充実
3. 教育・文化芸術活動、スポーツ活動・・・・・・・・・・・・・・ 47P
  - (1) インクルーシブ教育の構築
  - (2) 教育環境の整備
  - (3) 文化芸術活動、スポーツ活動などの振興
4. 雇用・就労・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52P
  - (1) 障害者雇用の促進
  - (2) 総合的な就労の支援
  - (3) 障害特性に応じた就労支援及び多様な就業の機会の確保
5. 生活環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58P
  - (1) 住み慣れた地域で生活できる住宅の確保
  - (2) 公共的施設などのバリアフリー化など障害者に配慮したまちづくりの推進
6. 情報アクセシビリティ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62P
  - (1) 情報通信における情報アクセシビリティの向上
  - (2) コミュニケーション支援の充実
7. 安全・安心・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66P
  - (1) 防災・防犯対策の推進
8. 差別の解消及び権利擁護・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68P
  - (1) 障害を理由とする差別の解消の推進
  - (2) 虐待の防止と権利擁護の推進
9. 行政サービスなどにおける配慮・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71P
  - (1) 行政サービスなどにおける配慮

# 上田市障害者基本計画について

## 1. 計画策定の趣旨

上田市では、障害者基本法<sup>1)</sup>に基づき、平成 19 年度に「上田市障害者基本計画」を策定し、障害者自身が本来持つ個性の尊重と、自己の能力を最大限に引き出すための支援体制や地域一体となった環境づくりを進めることを基本方針とし、障害者施策の総合的な推進を図ってきました。

この計画は、平成 22 年度までを前期計画期間とし、平成 23 年度から平成 25 年度までを後期計画期間と位置付け、後期計画の策定に当たっては、より実効性の高い計画とするため、前期計画の評価検証を行うとともに、地域や社会情勢の変化に応じて見直しを行い、「障害のある人が住み慣れた地域で安心して生活できる社会」を目指し、新たな課題にも取り組んできました。

平成 26 年度を初年度とする「第二次上田市障害者基本計画」では、第一次基本計画の成果と平成 23 年の障害者基本法<sup>1)</sup>の改正、国の新たな障害者基本計画を踏まえ、全ての市民が、障害の有無に関わらず、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する地域社会を実現するため、障害のある人の自立及び社会参加の支援などを図る施策を総合的かつ計画的に推進します。

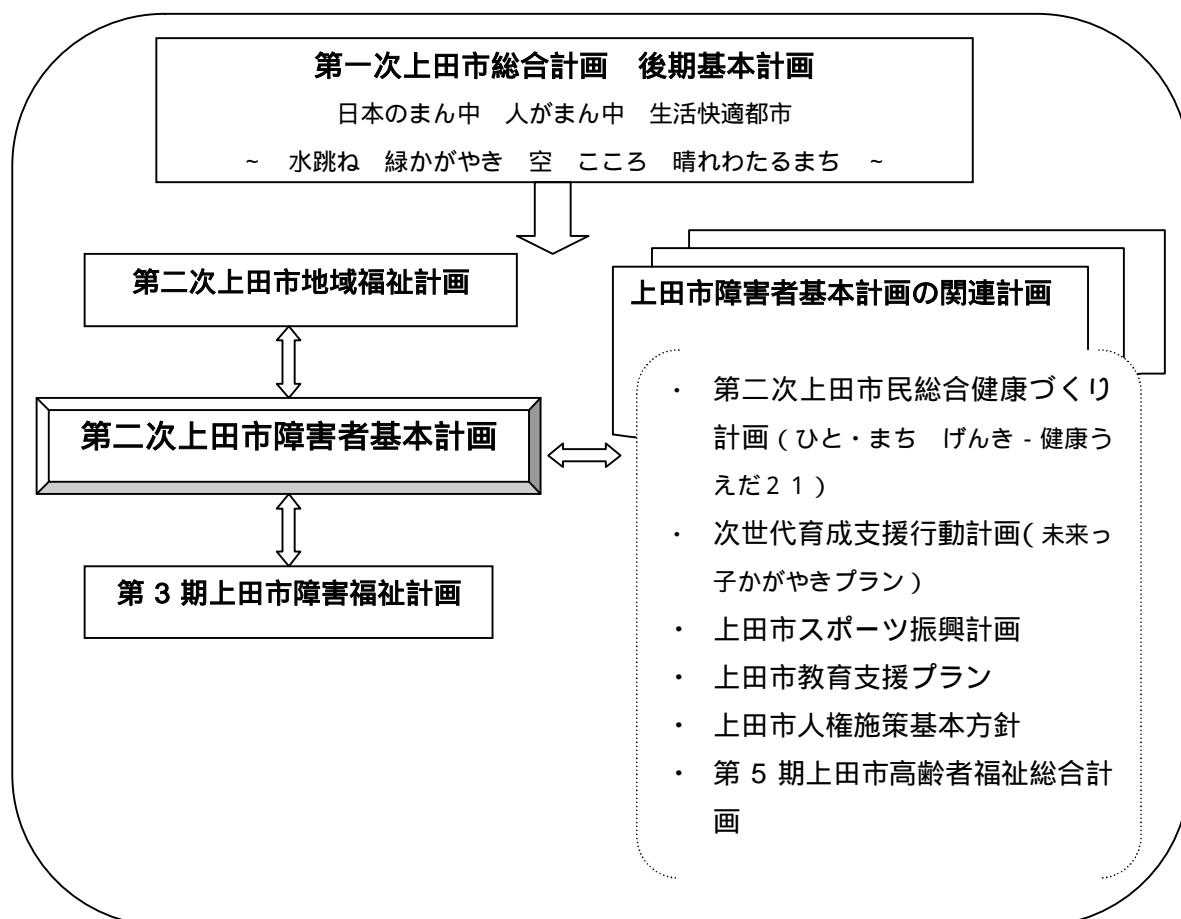
---

1) 障害者基本法 障害のある人のための施策に関し、基本的理念を定め、国・地方公共団体などの責務を明らかにするとともに、障害のある人のための施策の基本となる事項を定める法律。平成 23 年に目的規定や障害のある人の定義などを見直した。

## 2. 計画の位置付け

第二次上田市障害者基本計画は、障害者基本法<sup>1)</sup>第11条第3項<sup>2)</sup>により、上田市における障害のある人の自立及び社会参加の支援などを総合的かつ計画的に推進を図るために策定し、上田市が実施する障害者施策の基本的な計画として位置付けられます。

なお、この計画は上田市総合計画及び上田市地域福祉計画を上位計画とし、市の定めるその他の計画との整合性と調和を図りつつ、障害のある人に関する施策を総合的に推進します。



### 2) 障害者基本法（障害者基本計画等）

#### 第11条

3 市町村は、障害者基本計画及び都道府県障害者計画を基本とするとともに、当該市町村における障害者の状況等を踏まえ、当該市町村における障害者のための施策に関する基本的な計画（以下「市町村障害者計画」という。）を策定しなければならない。

### 3. 計画期間

計画の期間は、平成26年度から平成32年度までの7年間とします。

この間、大幅な制度改正や社会情勢の変化などが生じた場合には、必要に応じて見直します。

H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
		第一次上田市総合計画					第二次上田市総合計画							
		前期基本計画			後期基本計画									
		上田市地域福祉計画				第二次上田市地域福祉計画								
		上田市障害者基本計画					第二次上田市障害者基本計画							
		前期計画			後期計画									
		上田市障害福祉計画												
		第1期		第2期		第3期		第4期		第5期				
		上田市民総合健康づくり計画（健康うえた21）							第二次計画					
		上田市次世代育成支援行動計画							子ども・子育て支援事業計画					
		前期計画			後期計画									
		上田市高齢者福祉総合計画												
		第3期		第4期		第5期		第6期		第7期				
		上田市人権施策基本方針												
		上田市スポーツ振興計画												
		上田市教育支援プラン												
		第二次障害者基本計画（国）					第三次障害者基本計画（国）							
		前期計画			後期計画									
		長野県障害者プラン					長野県障害者プラン2012							
		後期計画												

# 障害者施策に関わる現状と課題

## 1. 障害者施策をめぐる国、県の動向

### (1) 国の動き

平成 18 年 4 月、障害の種別（身体障害、知的障害、精神障害）で分かれていた制度を一元化するとともに、障害のある人の地域生活と就労の促進などを目的とする障害者自立支援法が施行されました。

平成 23 年の障害者基本法<sup>1)</sup>の改正では

すべての国民が、障害の有無に関わらず、等しく基本的人権を享有するかけがえない個人として尊重される。

すべての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現する。

などの理念、目的が盛り込まれました。

平成 24 年 10 月には、障害のある人に対する虐待を発見した場合の通報義務、虐待を受けた人の保護や家族の負担軽減などを定めた障害者虐待防止法（障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律）が施行され、平成 25 年 4 月には、障害者基本法<sup>1)</sup>の改正を踏まえ、障害者自立支援法が障害者総合支援法（障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律）として改正施行されました。

また、平成 25 年 6 月には、障害者基本法<sup>1)</sup>の改正の際に加えられた第 4 条の「差別の禁止」の基本原則を具体化し、障害を理由とする差別の解消を推進することを目的として障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）が制定されました。精神保健福祉法（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律）や障害者雇用促進法（障害者の雇用の促進等に関する法律）も一部が改正されました。

さらに、平成 25 年度を初年度とする第三次障害者基本計画が策定され、平成 25 年度から平成 29 年度までの概ね 5 年間に講ずべき障害者施策の基本的な方向が定められました。

平成 32 年（2020 年）の東京オリンピック・パラリンピック<sup>3)</sup>の開催決定は、障害のある人のスポーツ活動への関心の高まりと一層の普及に寄与し、スポーツの分野に関する社会資源のバリアフリー化とともに、心のバリアフリー<sup>4)</sup>化の進展が期待されます。

---

3) **パラリンピック** 障害のある人を対象とした、もうひとつのオリンピック。4 年に一度、オリンピック競技大会の終了直後に同じ場所で開催されている。

4) **心のバリアフリー** 施設を円滑に利用するための人的支援や情報提供などのソフト面での対応を進めるとともに、高齢者、障害のある人などへの無理解、偏見、差別をなくしていくこと。

平成 25 年 12 月には、障害のある人への差別を禁止し、社会参加を支援する国連の障害者権利条約<sup>5)</sup>(障害者の権利に関する条約)の締結が国会で承認されました。既に 137 カ国と欧州連合(EU)が締結済みで、日本も条約を結ぶことにより国際社会の流れに追いつくことになります。

#### 関係法律の制定・改正等

制定・改正	施行	法律 ( )は正式名称	内容
H23.6	H24.10	<b>障害者虐待防止法</b> (障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律)	障害者に対する虐待の禁止、国等の責務、障害者虐待を受けた障害のある人に対する保護及び自立支援のための措置、養護者に対する支援のための措置を定める。
H24.6	H25.4 H26.4	<b>障害者総合支援法</b> (障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律)	「障害者自立支援法」から名称を変更し、「制度の谷間」を埋めるべく、障害福祉サービスの対象範囲に難病等を加える。「障害程度区分」を標準的な支援の度合いを総合的に示す「障害支援区分」に改める。
H25.6	H28.4	<b>障害者差別解消法</b> (障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律)	障害を理由とする差別を解消するための措置として、差別的取り扱いの禁止、合理的配慮の提供などを定める。
H25.6	H26.4 H28.4	<b>精神保健福祉法</b> (精神保健及び精神障害者福祉に関する法律)	精神障害者の地域生活への移行を促進するため、精神障害者の医療に関する指針の策定、保護者制度の廃止、医療保護入院における入院手続き等の見直しを行う。
H25.6	H28.4 H30.4	<b>障害者雇用促進法</b> (障害者の雇用の促進等に関する法律の一部を改正する法律)	雇用の分野における障害者に対する差別の禁止及び障害者が職場で働くに当たっての支障を改善するための措置を定めるとともに、障害者の雇用に関する状況に鑑み、精神障害者を法定雇用率の算定基礎に加える等の措置を講ずる。

5) **障害者権利条約** 平成 18 年(2006 年)12 月に国連総会で採択され、平成 20 年(2008 年)5 月に発効しています。条約の締結によって、障害者施策にかかる国内法は条約との整合が求められるとともに、条約の実施状況を定期的に国連に報告しなければならない。



## (2) 長野県の動き

長野県では、平成 19 年 3 月に「長野県障害者プラン後期計画」を策定し、障害のある人が自ら選んだ地域で普通に暮らすことを積極的に支援するため、住まいとなるグループホーム<sup>6)</sup>などの整備や相談体制の中核をなす障害者総合支援センターを県内 10 圏域に設置するなどの充実を図ってきました。

その後、障害のある人の総合的な相談支援体制の整備や西駒郷（駒ヶ根市）などの施設から地域への生活移行を積極的に進めてきました。

平成 24 年 3 月には、県民一体となって「共生社会」の実現に向けた取組をさらに加速させるため、平成 24 年度から 6 年間にわたる長野県の障害者施策の基本となる新たな「長野県障害者プラン 2012」を策定し、障害のある人もない人も、お互いに個性を尊重し、支え合いながら、一人ひとりが地域社会の一員として居場所と出番を見出すことのできる“共に生きる長野県づくり”を目指しています。

---

6) グループホーム 夜間や休日に共同生活を行う住居で相談や日常生活上の援助を行う。平成 26 年 4 月からはグループホームとケアホーム（入浴・排泄・食事の介護などを行う。）が一元化される。

## 2. 上田市の障害者の現状

### 【手帳所持者について】

障害者手帳所持者の内訳は、身体障害者手帳が 6,900 人、療育手帳が 1,409 人、精神障害者保健福祉手帳が 1,165 人で、身体、知的、精神の 3 障害ともに増加傾向にあります。

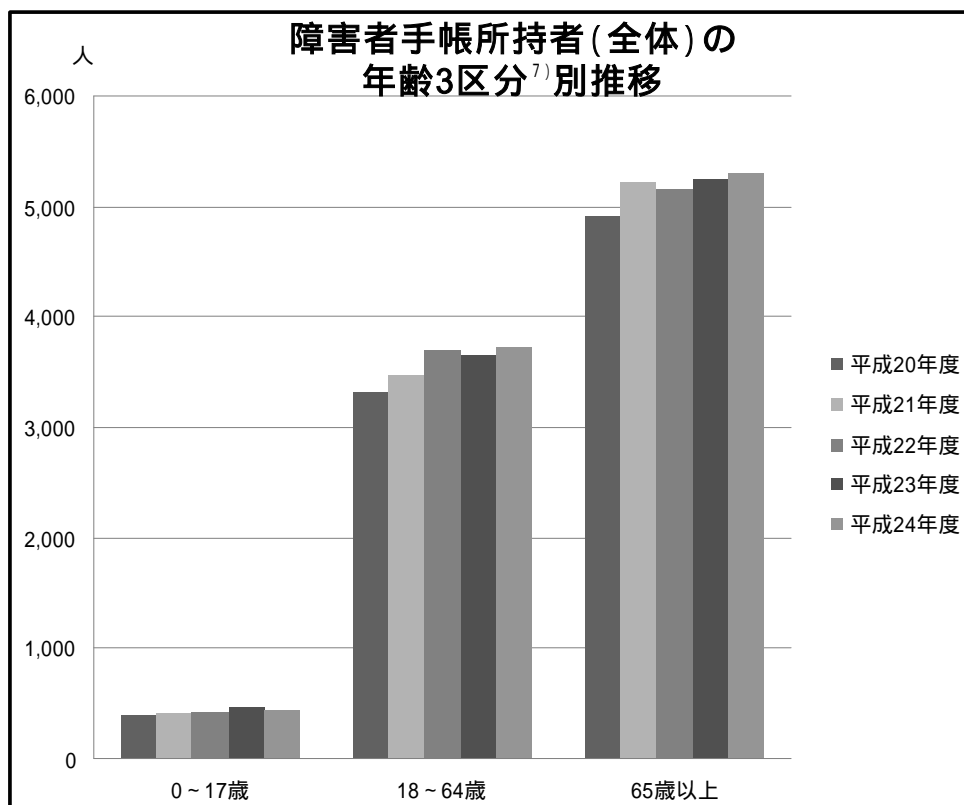
3 障害の合計は 9,474 人で、市の全人口の 6% に相当し、上田市民の約 16 人に 1 人が何らかの障害を有していることとなります。

### 障害者手帳所持者の推移

(単位：人)

区分	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
0～17 歳	389	417	422	471	440
18～64 歳	3,316	3,465	3,698	3,655	3,730
65 歳以上	4,925	5,216	5,168	5,255	5,304
合計	8,630	9,098	9,288	9,381	9,474

資料：福祉課



7) 年齢3区分 18歳未満は児童福祉法の適用、65歳以上は介護保険法の適用となることから、0～17歳、18～64歳、65歳以上の3区分とする。

## (1) 身体障害者

### 年齢区分別

身体障害者手帳所持者の年齢別構成割合では、手帳の取得時の年齢が 40 歳台から急激に増えていることから、65 歳以上の手帳所持者の割合が 73% (平成 20 年度時 70%) を占めています。

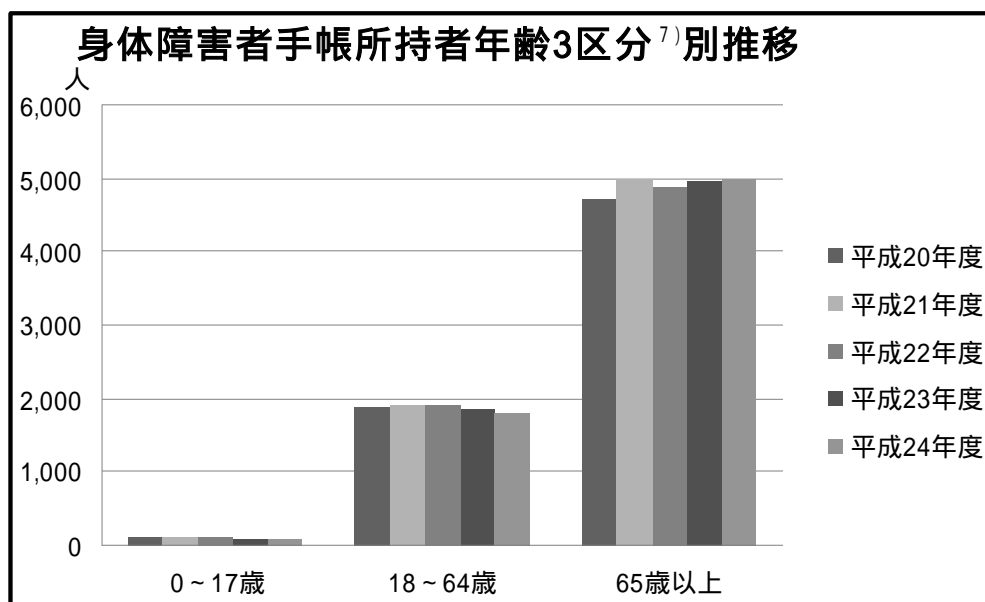
全体では、平成 20 年度からの 5 年間で 200 人増加し、増加率は 3% となっています。

### 身体障害者手帳の所持者

(単位：人)

区分	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
0～17 歳	112	108	98	91	91
18～64 歳	1,873	1,911	1,908	1,851	1,808
65 歳以上	4,715	4,985	4,879	4,960	5,001
合計	6,700	7,004	6,885	6,902	6,900

資料：福祉課

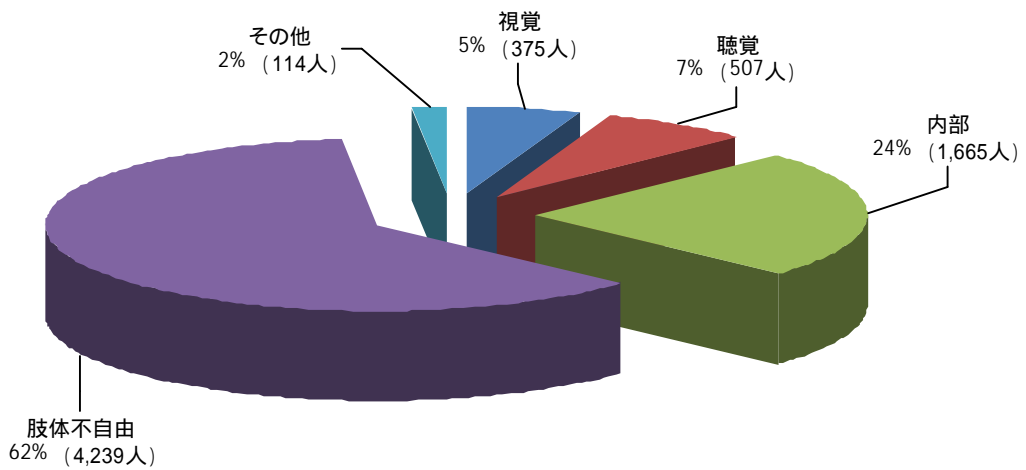


### 障害別・等級別

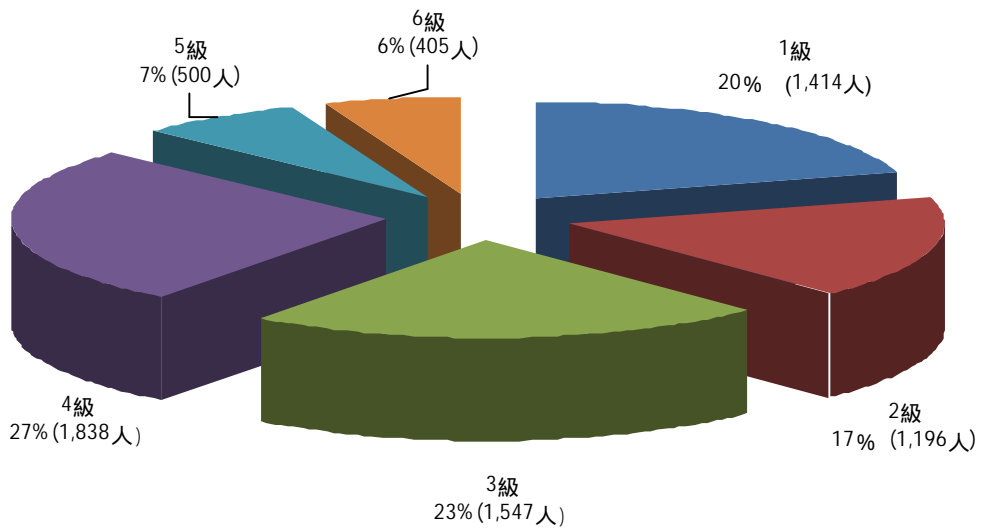
障害別では、肢体不自由 (62%) と内部障害 (24%) で 86% (平成 20 年度時 85%) と大半を占め、5 年前と同様の傾向を示しています。

また、等級別では、1・2 級の重度障害者が 2,610 人で全体の 38% (平成 20 年度時 40%) となっています。

### 平成24年度障害別手帳所持者割合 (障害区分別)



### 平成24年度等級別手帳所持者割合 (等級別)



## (2) 知的障害者

療育手帳所持者の年齢別構成割合は、18歳未満が24%(平成20年度時24%)を占め、18歳以上の占める割合は、76%(平成20年度時76%)となっており、年齢3区分の構成比は変わっていません。

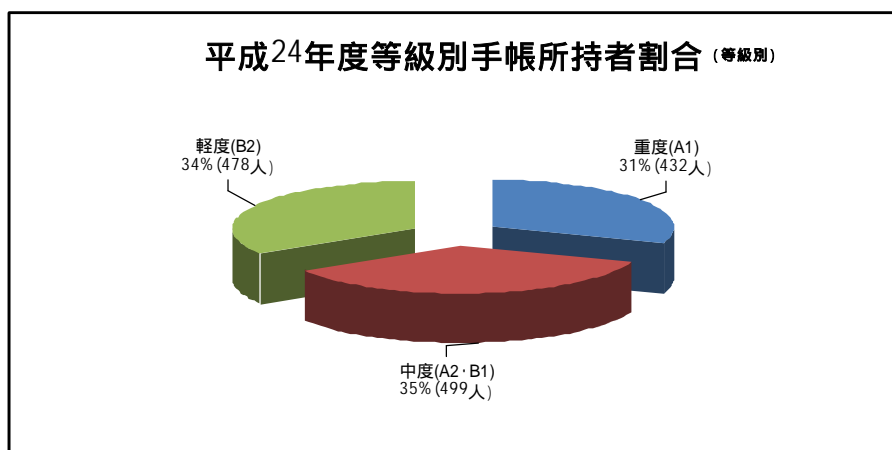
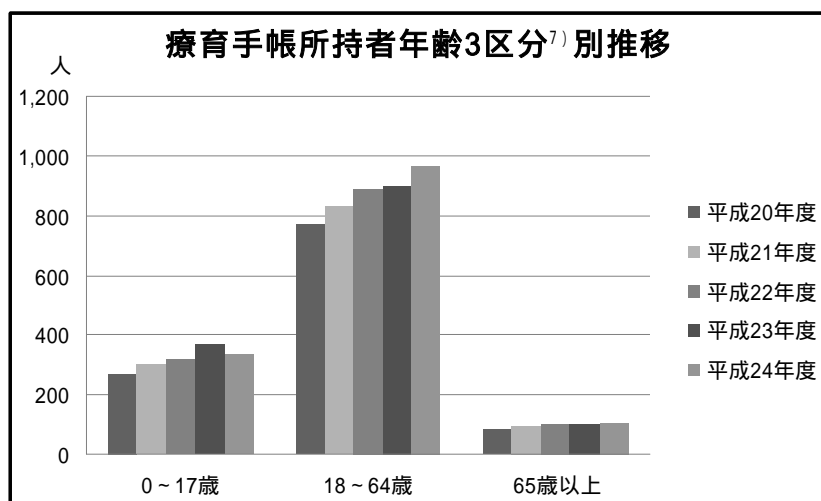
障害の程度別では、重度障害者<sup>8)</sup>の割合が31%(平成20年度時35%)となっています。

### 療育手帳の所持者

(単位:人)

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
0～17歳	269	300	318	371	336
18～64歳	772	831	887	896	965
65歳以上	85	97	100	102	108
合計	1,126	1,228	1,305	1,369	1,409

資料:福祉課



8) 重度障害者 療育手帳 重度 A1(IQ が 35 以下)、中度 A2(身体障害者手帳が 3 級以上であり、かつ IQ が 36 から 50)・B1 (IQ が 36 から 50)、軽度 B2(IQ が 51 から 75)

### (3) 精神障害者

精神障害者保健福祉手帳所持者は、1,165人（平成20年度時777人）で平成20年度と比較して388人、50%の大幅な増加となっています。

年齢別構成割合は、18歳～64歳で82%（平成20年度時84%）を占めています。

等級別では、障害程度の重い順に1級が54%、2級が38%、3級が8%（平成20年度時1級が49%、2級が44%・3級が7%）となっています。

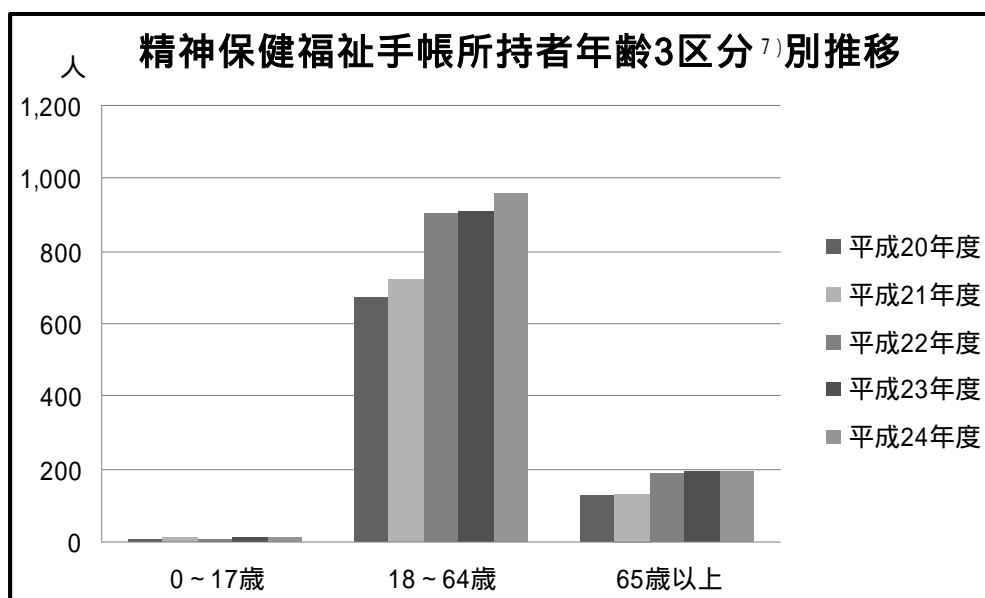
自立支援医療制度（精神通院医療）<sup>9)</sup>の支給対象者は、平成25年度3月末で2,292人（平成20年度時1,799人）となっており大幅な伸びを示しています。

精神保健福祉手帳の所持者

（単位：人）

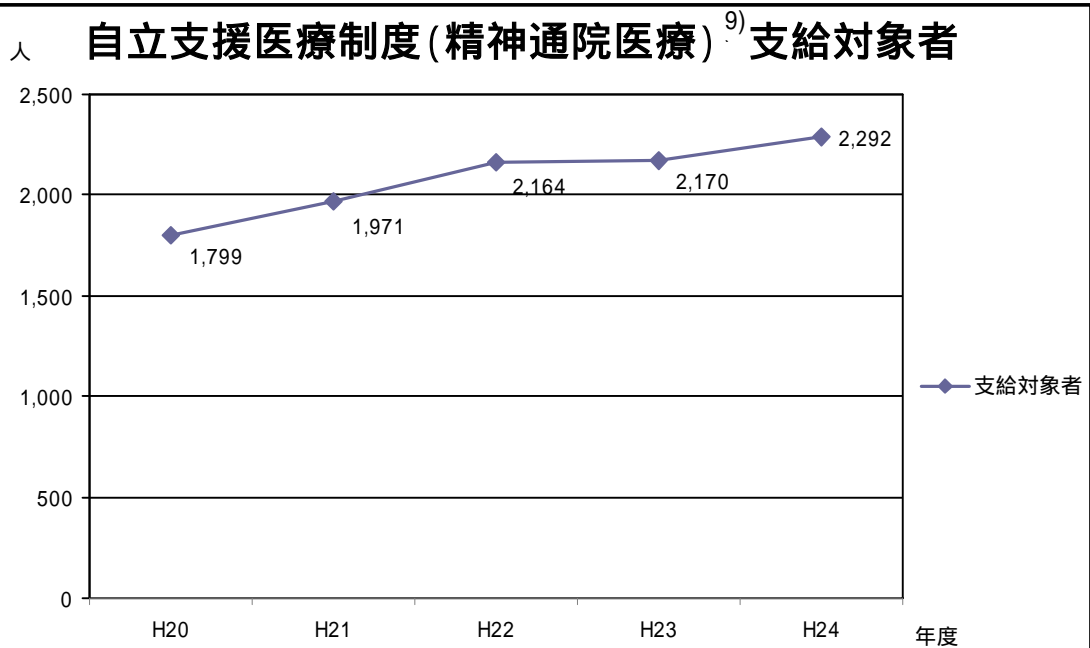
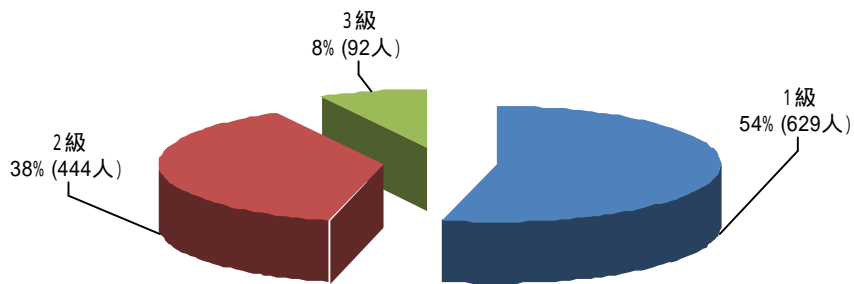
区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
0～17歳	6	9	6	9	13
18～64歳	655	723	903	908	957
65歳以上	116	134	189	193	195
合計	777	866	1,098	1,110	1,165

資料：福祉課



9) 自立支援医療制度（精神通院） 精神疾患（てんかんを含む）で、通院による精神医療を続ける必要がある病状の人に、通院のための医療費の自己負担を軽減する制度。

平成24年度等級別手帳所持者割合 (等級別)



資料: 福祉課

## 【障害者の就労状況】

上田公共職業安定所（ハローワーク上田）の上田所管内で障害のある人の就労者数は、平成 25 年 6 月 1 日現在、513.5 人と前年度に比べて増えており、雇用率は 1.76%と若干増えています。しかしながら、長野県の平均実雇用率 1.88%に比べて低い状況です。また、法定雇用率達成企業の割合も、51.7%（77 社）で長野県全体の平均値 53.5%を下回っています。

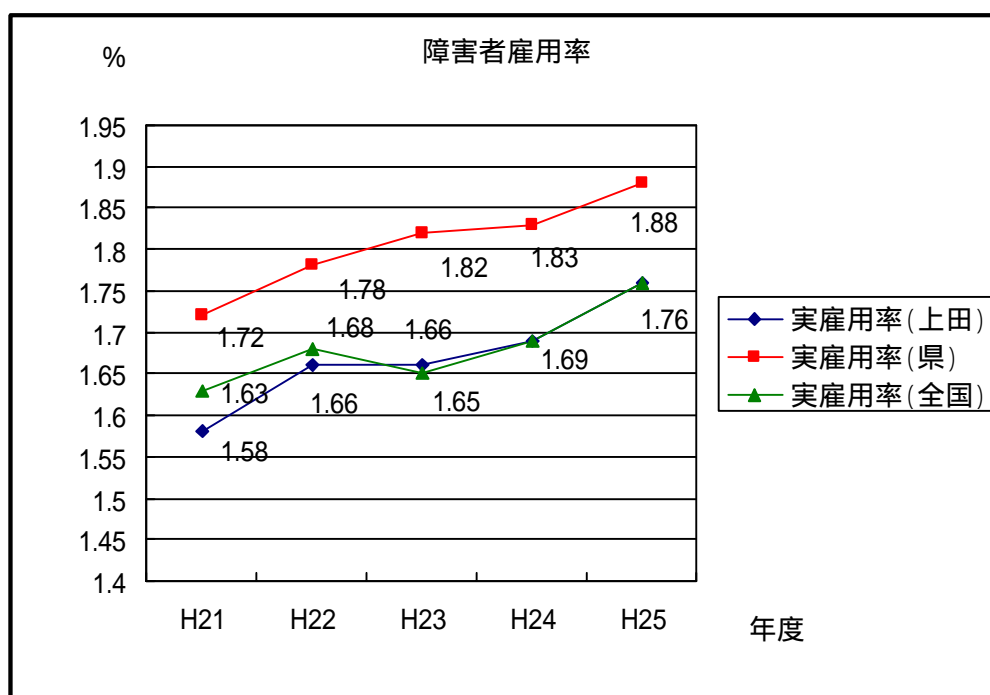
なお、平成 25 年 4 月からは、民間企業の障害者法定雇用率が 1.8%から 2.0%に引き上げられています。

上田所管内の障害者雇用状況

（単位：人）

年度	雇用障害者数			障害者合計
	身体障害者数	知的障害者数	精神障害者数	
H21	284	114	11.5	409.5
H22	275	129	14.5	418.5
H23	316.5	123.5	21	461
H24	316	132.5	28	476.5
H25	322	147	44.5	513.5

障害者数は所定労働時間が週 30 時間以上の重度の身体・知的障害者については、ダブルカウント（1人を2人として計算）。この者が短時間労働（週 20～30 時間未満）の場合は 1 人としてカウント。また、週 30 時間以上の重度以外の障害者は 1 人、重度以外の短時間労働の障害者は 0.5 人としてカウント。



資料：上田公共職業安定所（ハローワーク上田）



### 3. 障害者施策に対する市民意識とニーズ

第二次上田市障害者基本計画の策定に当たって上田市における現状の把握、課題の抽出、障害のある人の意見を反映することを目的に、障害者意向調査と関係団体との懇談会を実施しました。

#### 【障害者意向調査の概要】

##### (1) 調査の目的

計画の策定に向けて、より実効性のある計画とするために基礎資料を得ることを目的としています。

なお、対象者が18歳未満の場合は、本人の意向を尊重し保護者に回答してもらうこととしました。

##### (2) 調査の実施概要

各調査の対象者、方法、回収結果などは次のとおりです。

###### 対象者

身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者など0歳から64歳までの市民530人を障害者台帳などから無作為抽出

###### 調査方法

郵送配布・郵送回収

###### 実施時期

平成25年8月9日(金)から8月26日(月)まで

###### 回収率

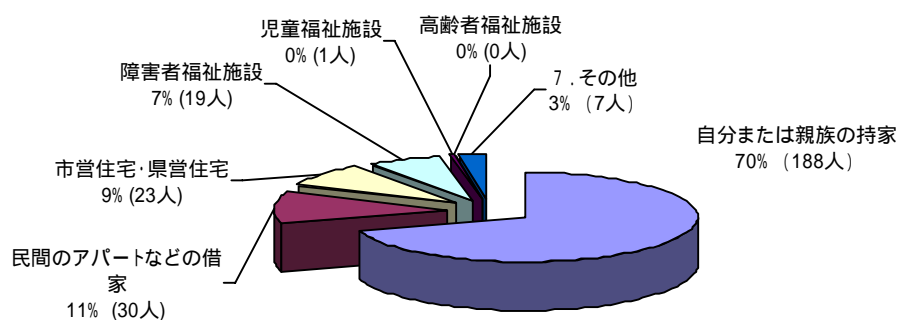
- ・有効回収数 267件
- ・有効回収率 50.38%

種 別	配布数(件)	回収数(件)	回収率(%)
身体障害者手帳所持者(18歳以上)	213	112	52.58
療育手帳所持者(18歳以上)	125	58	46.40
精神保健福祉手帳所持者(18歳以上)	118	57	48.31
上記3手帳いずれか所持者で18歳未満	44	24	54.55
手帳未所持で福祉サービス利用者(特別児童扶養手当等受給者)	30	16	53.33
合 計	530	267	50.38

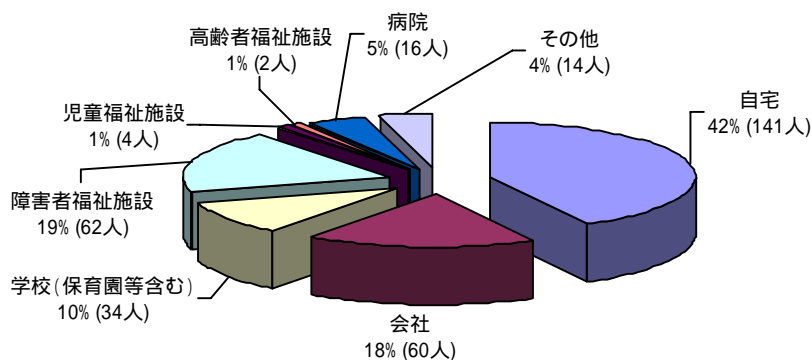
## 考 察

### あなたのことについて

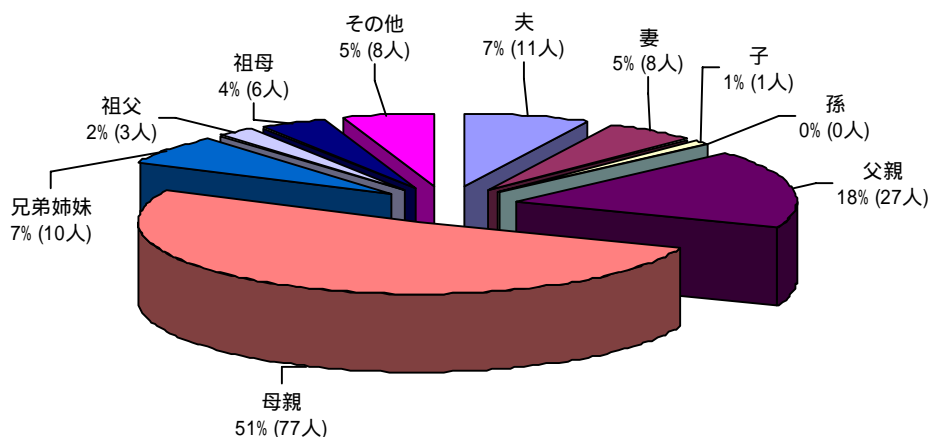
住まいについての質問では、回答者のうち9割が『在宅での暮らし』を選択しています。平成21年度調査時に比べて在宅で暮らす人が1割ほど増えており、精神保健福祉手帳の取得者の増加や地域移行（住まいを施設や病院から、障害者自身が自ら選んだ住まいで安心して、自分らしい暮らしを実現すること）が進んだことが伺われます。



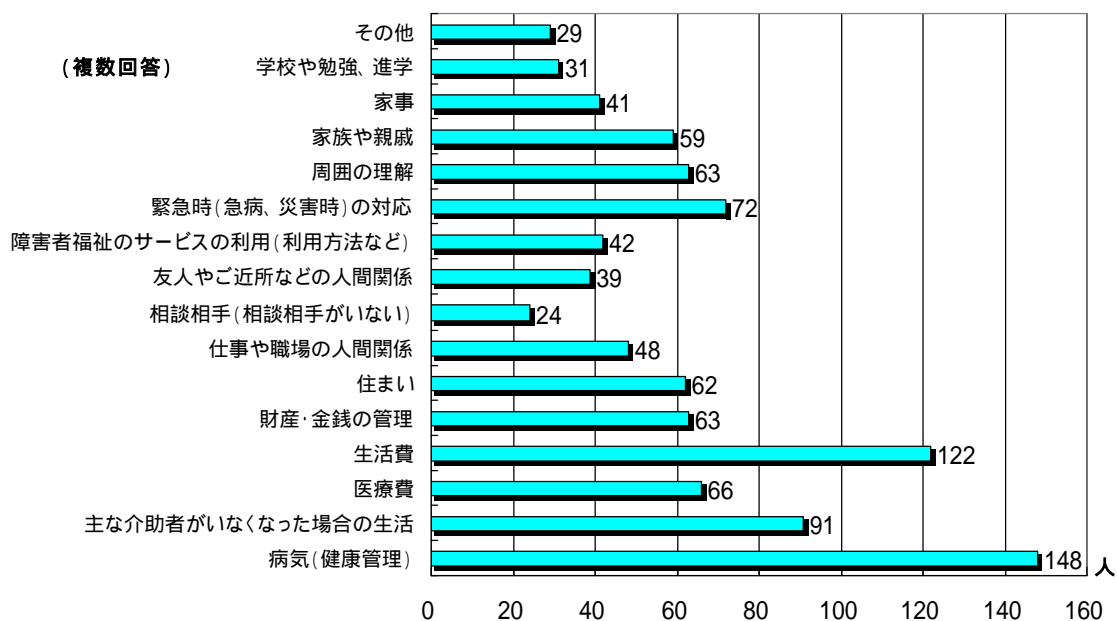
昼間をどこで過ごすかの質問では、『自宅』が多数となっています。就労に結び付かない人や日中活動を行う障害福祉サービスの利用につなげていない人がいることが読み取れ、障害者一人ひとりの特性に合わせた適切なサービスの提供が求められています。



介助者に関する質問では、5割の人が『母親』から介助を受けており、『父親』を加えると『両親』と回答した人は7割になり、親の負担が見られます。介助者の高齢化などに対応する支援が課題となります。

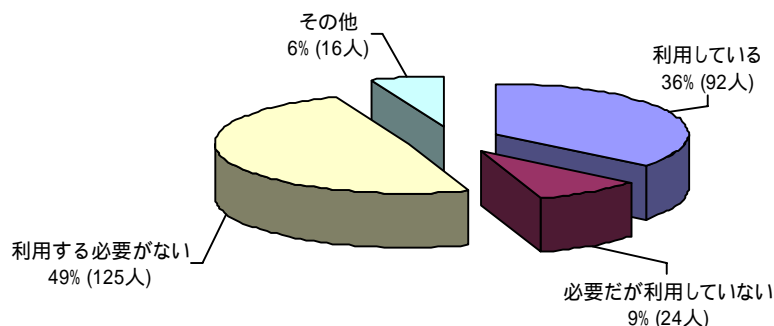


日常生活の中での悩みや不安は、一番が『本人の病気(健康管理)』、次いで『生活費』、『介助者がいなくなった場合の生活のこと』と続きます。自由記述では、介助者である親の高齢化、親亡き後の生活を不安視する記述もあります。また、障害に対する理解不足から離職したことなど就労に関して悩みや不安のある人もいます。

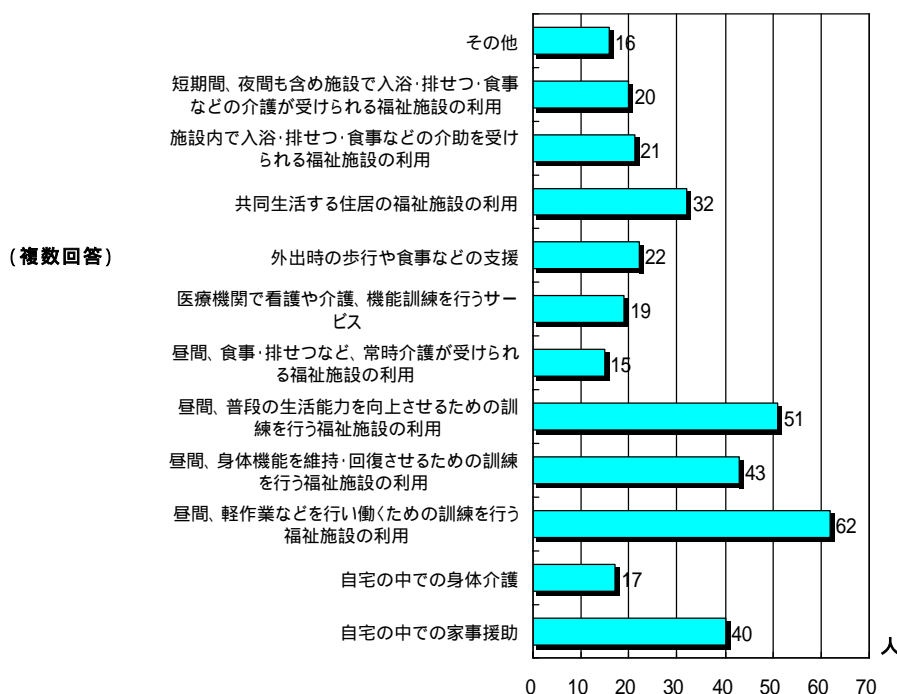


## 障害福祉サービスについて

回答者の半数以上が『障害福祉サービスを利用していない』・『利用する必要がない』としています。「利用がない」と回答した人の半数が身体に障害がある人となっています。



利用したい障害福祉サービスは、『働くための訓練』、『身体機能を維持・回復させるための訓練』、『生活能力を向上させるための訓練』などを行う施設の利用と家事援助のサービスが多くなっています。

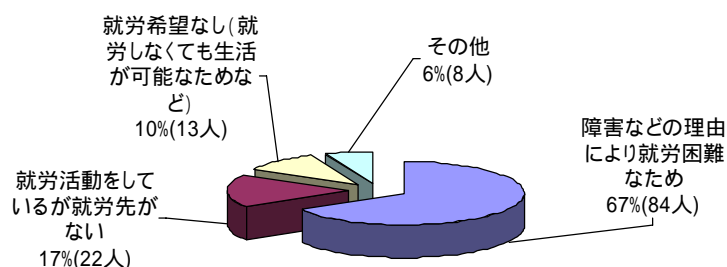


これから充実してほしいと思う障害福祉サービスについての自由記述では、雇用・就労の確保に関する記述や重症心身障害児の利用できる施設、放課後の預かり・一時預かり・ショートステイなどの社会資源の充実を望む記述、交通手段の確保や移送サービスの充実の記述がありました。

## 就労について

現在の就労状況では、回答者のうち67%が『働いていない』と回答しています。障害の等級、状態にもよりますが、障害のある人の就労が困難な実態が読み取れます。

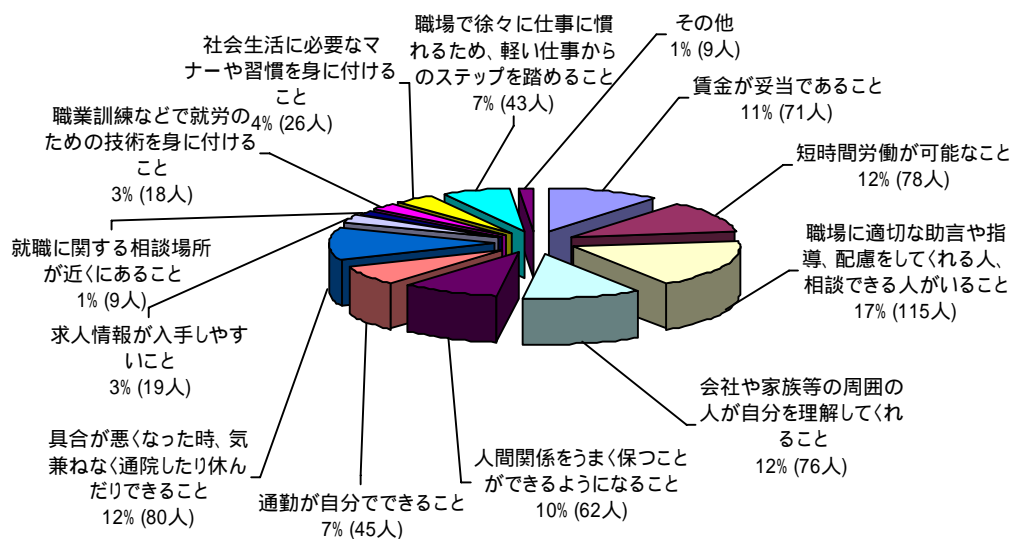
【働いていない理由】



働くための支援として、もっとも多い回答に、『職場内に適切な助言や指導、配慮をしてくれる人、相談できる人がいること』があげられ、次いで、『体調が悪い場合には周りに気兼ねなく通院したり休んだりできること』、『短時間労働が可能なこと』、『障害に対する理解があること』があげられています。精神・知的障害者では『職場で徐々に仕事に慣れるため、軽い仕事からのステップを踏めること』が多くなっています。

自由記述でも職場内での人間関係や理解者・指導者がいることなどの働きやすい職場環境を望む記述が多くあげられています。賃金については、こだわらないとの記述がある一方で、賃金の向上を望む記述もあり、生きがいとしての就労と生活の糧としての就労の両側面が表れています。

(複数回答)

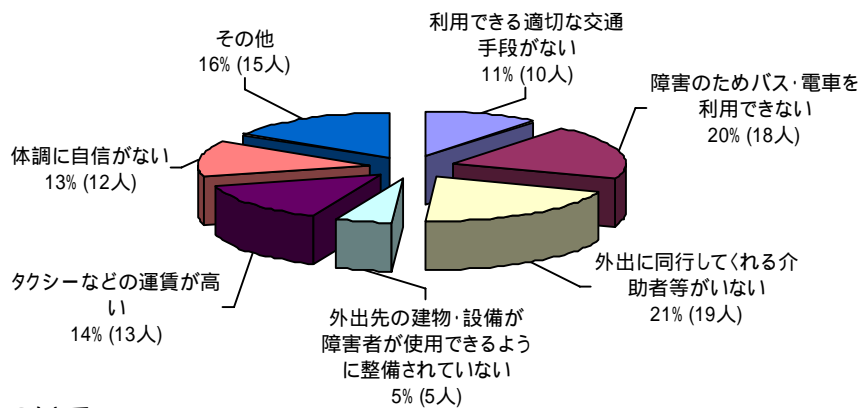


## 外出について

外出については、回答者のうち6割は『自分で車を運転』したり、『一人で電車・バス・タクシーなどの公共交通を使い、出かけること』ができています。

外出したいときに外出できない理由として、『外出に同行してくれる介助者がいないこと』や『障害のあることにより公共交通を利用できないこと』があげられ、自由記述として、公共交通の充実（バスなどの本数の増加やノンステップバスの導入など）も数多く寄せられています。

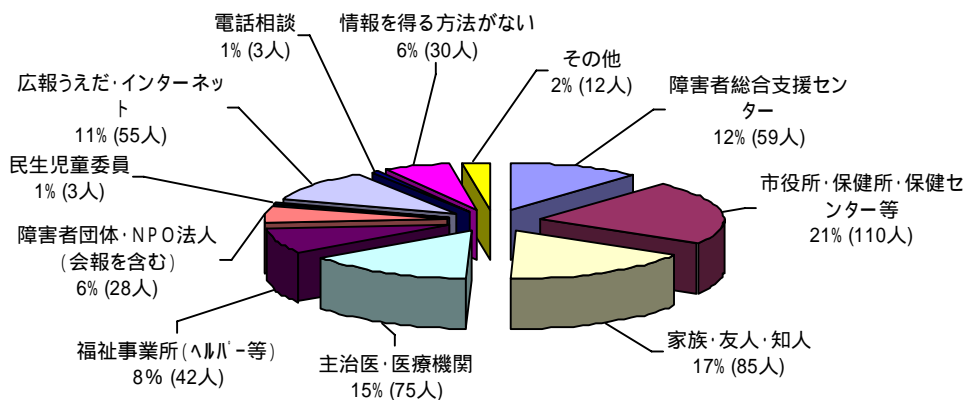
さらに、外出先でのトイレの心配のほか障害者専用駐車場に健常者が駐車しているという記述もありモラルの向上が望まれます。



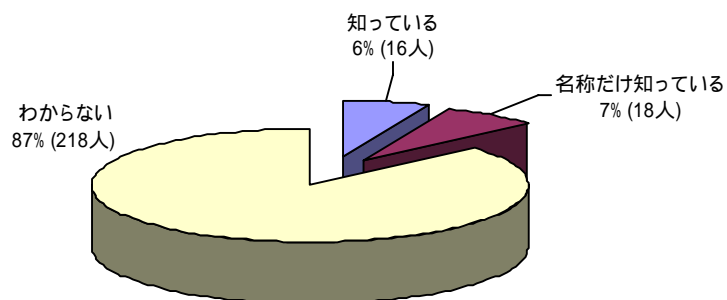
## その他について

障害福祉サービスについての情報源としては、『市役所などの公共施設』からの情報入手が多く、次いで『家族や友人、知人』から情報を得ています。サービスや制度については、『その内容や利用するための手続き』、『利用できる窓口の場所や連絡先』などを必要とする回答が多く、利用者の立場に立った情報の提供が望まれます。

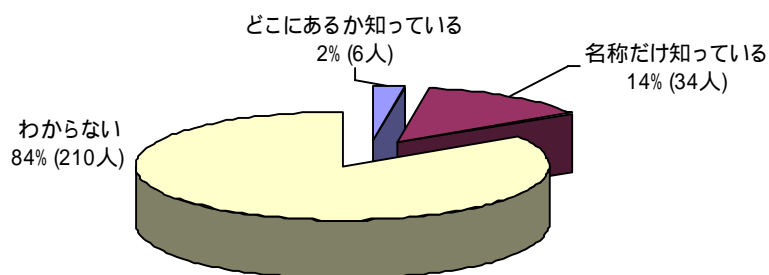
### (複数回答)



平成 24 年 4 月に開所した上小圏域成年後見支援センターやその制度についての認知度では、ほとんどの人がわからないと回答しており、周知や啓発の取組が必要です。



障害者虐待を見たり、聞いたり、受けたりした場合にどこに相談したら良いか、また「障害者虐待防止センター」という窓口の存在についても、知らない・わからないとの回答が多く成年後見制度と同様に周知や啓発の取組が必要です。

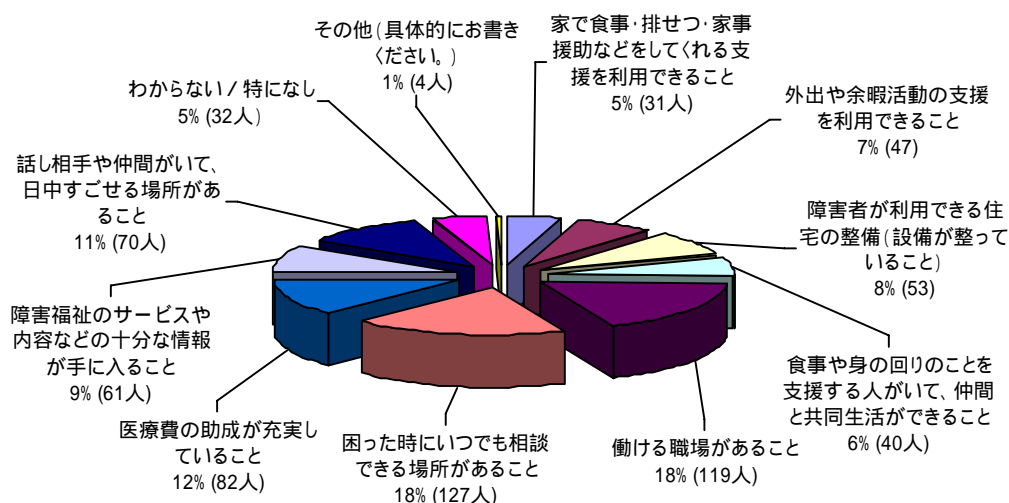


## 将来のことについて

将来の生活への希望としては、『自宅家族と暮らしたい』とする回答が多く、引き続き住み慣れた地域での暮らしを望んでいます。さらに、地域で暮らすための支援としては、『困ったときに相談できる場所』や『働ける場所があること』、『医療の充実』が回答の中で多く占めています。また、今後やってみたいと思うことに、多くの人が『趣味や創作活動、スポーツ活動』をあげており、余暇活動への支援も必要となっています。

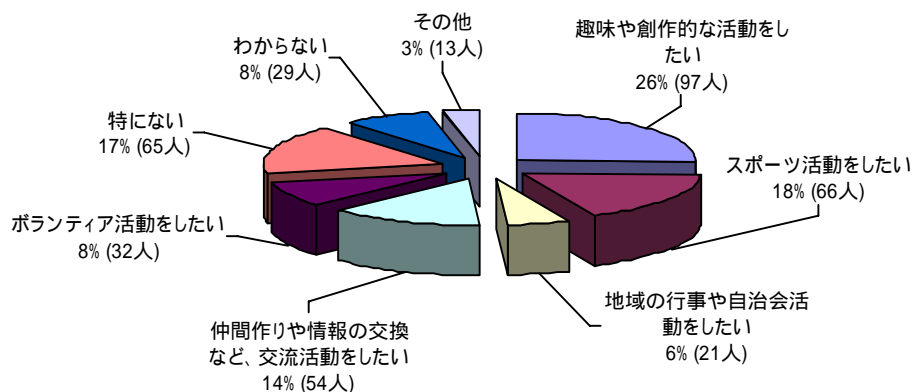
### 【地域で暮らすための支援】

(複数回答)



### 【今後やってみたいこと】

(複数回答)



最後に上田市障害者基本計画への意見・要望について

自由記述



## 【障害者等関係団体懇談会等】

第二次上田市障害者基本計画の策定に当たり障害者等関係団体との懇談会を開催しました。また、一般の意見として広報うえだ 8月号で計画への意見などを募集しました。

### 【障害者等関係団体懇談会】

日 時：平成 25 年 8 月 26 日（月）10 時 00 分から 11 時 45 分まで

場 所：ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2 階 多目的ホール

参加団体：8 団体（関係機関 3 団体） 26 人参加

懇談会での主な意見など：18 件

- ・知的障害者への差別的な行為や無理解について
- ・災害時のマップづくりの進捗状況について
- ・障害者虐待防止センターの周知について
- ・障害者基本計画への引きこもり問題の位置付け
- ・就労について（企業に対する障害理解の研修）
- ・障害のある人の立場に立った相談支援体制について
- ・介助者への支援について
- ・重症心身障害児・者の移動手段について
- ・65 歳以上の障害福祉サービスについて
- ・発達障害児の普通学級での就学について

など

団体より提出された主な意見：40 件（懇談会での重複意見含む）

- ・親の高齢化について
- ・学校での「発達障害を学ぶ」授業の実施について
- ・公共施設のバリアフリー化について
- ・災害時の障害児者援護体制の確立
- ・個々のニーズに応じたリハビリテーション機能の強化
- ・障害者スポーツ指導員の障害理解
- ・上田市つむぎの家に関する要望
- ・特別支援教育支援員の増員と学校ボランティアの待遇改善
- ・保育園就園における「障害児枠」を設けること

- ・児童デイサービスやレスパイト<sup>10)</sup>、ファミリーサポートの利用について
- ・学童保育所と児童クラブの受け入れ態勢の充実
- ・ふれジョブ活動<sup>11)</sup>への支援
- ・公共施設での障害のある人への配慮
- ・公共施設などの入場料の割引制度を介助者への拡大と精神障害者保健福祉手帳所持者への適用
- ・福祉避難所の充実
- ・市主催の発達障害者サポーター養成事業の開催
- ・タブレット型携帯情報端末を活用した学習・生活支援

など

#### 【広報うえだで募集】

広報うえだ 8 月 1 日号に掲載

募集期間：平成 25 年 8 月 1 日（木）から 8 月 30 日（金）まで

募集方法：郵送、F A X、電子メールなど

提出された意見：3 件

- ・重症心身障害児者などに対する支援体制の強化
- ・関節リウマチ患者への支援
- ・上田市の放課後児童施設における、障害児受け入れなどに関する課題の報告

---

**10) レスパイト** 介護の必要な高齢者や障害のある人のいる家族へのさまざまな支援。家族が介護から解放される時間をつくり、心身疲労や共倒れなどを防止することが目的で、タイムケアなどのサービスを指す。

**11) ふれジョブ活動** 障害のある子どもが、地域での職業体験を通じて社会性や自尊感情を向上し、併せて地域における障害者理解の促進を図ることにより、障害の有無に関わらず、共に助け合うことのできる地域社会の実現を目指す活動。

## 4 . 上田市の課題

### 障害に対する理解の促進

障害のある人もない人も分け隔てられることのない社会を築くためには、日常生活や社会生活を送る上で障壁となるような施設や設備、制度、慣習、文化などについて、障害のある人だけでなく、個人や社会が一層の理解を深めていかなければなりません。

障害者団体との懇談会や障害者意向調査では、障害に対する周囲の無理解によって障害者本人や家族が辛い思いをした経験が語られるとともに、就労の場での障害の理解や配慮を求める意見があげられています。特に精神障害や内部障害などについては、外見からは判断できないことも多く、誤解を招く場合があります。

障害に対する意識啓発を促すとともに、幼少期からの福祉教育による、障害に対する正しい理解が必要です。

さらに、平成 24 年 4 月に開所した上小圏域成年後見支援センターや平成 24 年 10 月に設置した障害者虐待防止センターなど新たな施策についての普及・啓発が重要となっています。

### 障害者とその介助者の高齢化

急激な高齢化の進展は障害のある人とその介助者にとっても切実な問題となっています。

身体障害者手帳の所持者のうち 65 歳以上の人割合が 7 割を超え、障害者意向調査の結果では介助者の半数が 60 歳以上となっています。また、日常生活の中で、本人の健康管理と介助者がいなくなった場合の生活に対する不安が多く回答されています。

障害の特性や年齢といった個々の状況に応じた多様な生活の場の確保や住み慣れた地域で暮らすための支援の充実、医療・介護などとの連携がますます重要になっています。

さらに、障害のある人の健康管理も含め、若いうちから生活習慣の見直しなどを通じ積極的に健康を増進し、疾病の「予防」に重点を置いた対策の推進が急務となっています。

### 雇用・就労支援の充実

障害のある人の就労意欲が高まっている中で、就労によって自立し、いきいきと暮らしていけるように雇用・就労支援の一層の充実を図ることが必要です。

障害を理由とする差別的取り扱いを禁止し、障害のある人が働き続けられるよう障害を理解し指導・相談ができる人の存在、障害に応じた多様な就労環境を確保するなどの措置（合理的配慮）を講ずる必要があります。

さらに、福祉的就労の場では、障害のある人の働く意欲を後押しするため、工賃の向上に向けた施策の充実も必要です。

### **教育・育成体制の整備**

障害のある児童・生徒に対しては、早期の治療と指導訓練によって、障害の軽減や基本的な生活能力の向上を図り、将来の社会参加へつなげていく必要があります。児童・生徒の能力や可能性を最大限に伸ばし、地域の中での自立や社会参加に向けて必要な力を養い、一人ひとりの障害の状態に応じたきめ細やかな教育・支援が必要です。

文部科学省が全国の小・中学校を抽出して実施した「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童・生徒に関する調査」(平成24年2月～3月に実施)において、知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合が6.5%であったとの結果が公表されています。

学童保育や児童クラブなどの放課後児童施設では、障害を持つ児童・生徒の受け皿となり得る障害特性に応じた施設の整備や体制の充実が必要な状況です。

さらに、放課後や学校の休業日に生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進などの支援を行う「放課後等デイサービス」を行う事業所は、上小圏域全体で不足しており、広域的な課題として検討が必要です。

## 計画の基本的な考え方

### 1. 基本理念

障害の有無に関わらず、全ての市民は、一人ひとりが主権者であるとともに、等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重されなければなりません。そのために、優しさと思いやりにあふれ、障害の有無によって分け隔てられることなく、市民が主体的に相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する地域社会の実現に努めなければなりません。

第二次上田市障害者基本計画は、障害のある人を支援の対象としてのみ捉えるのではなく、自らの決定に基づき社会のあらゆる活動に参加する主体として捉え、障害のある人の自立と社会参加のために上田市、関係機関・各種団体、市民が連携・協働して取り組む障害者施策の基本的な方向性を定めるものとします。

### 2. 基本的な視点

- (1) 基本的人権が尊重され、障害を理由とした差別的な扱いや虐待、不利益を受けることのない社会の実現に向けた権利擁護の推進
- (2) 障害のある人もない人も地域の中で暮らしていくための障害に対する理解の普及・啓発活動の推進
- (3) 障害の有無により分け隔てられることのない共生社会の実現に向けた地域住民やボランティアなどの活動による支え合い
- (4) すべての子どもが地域で学び育つための福祉教育の充実とインクルーシブ教育<sup>12)</sup>の向上
- (5) 就労や教育など、あらゆる分野における合理的な配慮の提供
- (6) 障害のある人が住み慣れた地域で安心して暮らせる住環境の整備と障害福祉サービスの提供
- (7) 障害のある人もない人も安心して健康的な生活をしていくための疾病予防対策の充実

---

12) インクルーシブ教育 障害のある子どもと障害のない子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶこと。

### 3. 計画の推進体制

#### (1) 市民参画の推進と地域資源の有効活用

障害のある人が地域で安心して暮らしていくことができる環境づくりを進めていくためには、社会福祉協議会や民生・児童委員、障害福祉サービスの提供事業者、ボランティア団体などによる支援や地域住民の協力、地域との関わり合いが重要です。障害者団体やボランティア団体、NPO法人などの自主的な活動を積極的に支援するとともに、行政・関係機関・団体などがそれぞれの役割を果たし、相互に連携して障害のある人を地域で支える体制づくりを推進します。

#### (2) 人材の育成と資質の向上

障害のある人の自立を進めるためには、障害福祉サービスなどに係る人材を質、量ともに確保することが重要です。

障害福祉サービスや相談支援が適切に実施されるよう、県などの関係機関と連携を図り、障害福祉サービスの提供事業者などの専門職の確保に努めるとともに、相談支援従事者などのサービスの提供に関わる人材の育成及び資質の向上に努めます。

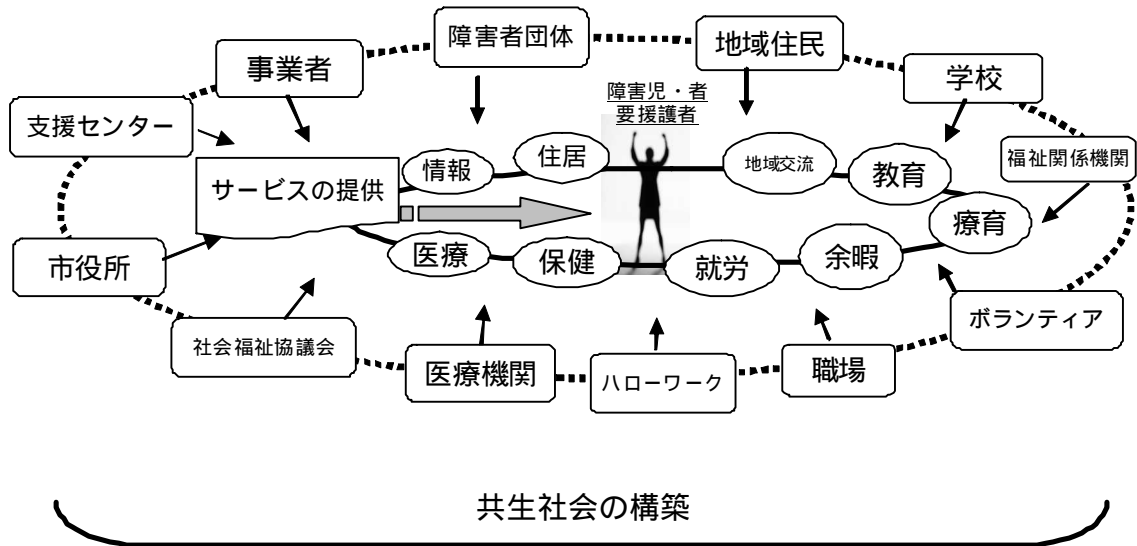
#### (3) 幅広い分野の関係機関との連携

障害のある人を支援する施策は、保健・医療・福祉・教育・労働・生活環境などさまざまな分野が関連しています。そのため、庁内はもとより、幅広い分野における関係機関との連携を強化し、一人ひとりの障害特性やライフステージに応じた総合的かつ継続的な支援を推進します。

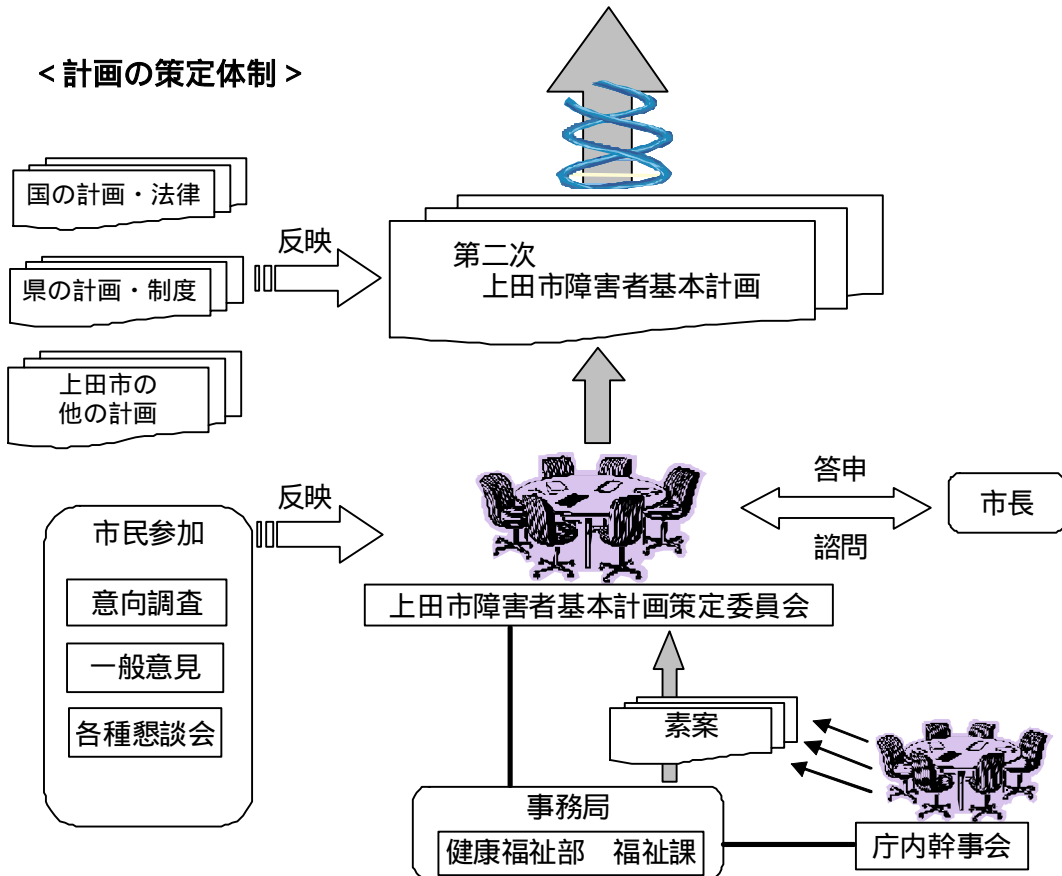
また、計画の実効性を確保するため、関係機関の意見を聴くとともに、法律の改正など社会情勢の変化に応じて推進体制などの見直しを行います。

## 計画の策定体制と推進体制

### < 地域資源のネットワークと障害者支援 >



### < 計画の策定体制 >



## 4. 重点施策・事業

### (1) 障害への理解の促進と普及・啓発

#### 【課題】

- ・ 障害に対する周囲の理解
- ・ 幼少期からの福祉教育の充実
- ・ 新たな施策・制度についての普及・啓発

#### 【取組】

各種講演会や学習会の開催

- ・ 出前講座による制度の周知
- ・ 障害者等団体懇談会の開催 など

幼少期からの福祉教育の推進

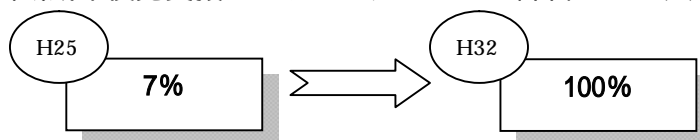
- ・ 教育現場での福祉施設や高齢者施設での体験学習事業

成年後見制度の積極的な利用促進

広報紙や行政情報番組での啓発

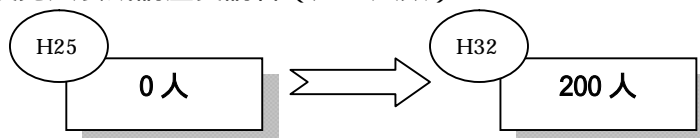
#### 【目標】

上小圏域成年後見支援センターを知っている障害のある人の割合



上田地域定住自立圏構想の取組の一環として設置されたが、当事者などへの周知が不足しており、認知度が100%となるよう周知を図ります。

市民後見人養成講座受講者（延べ人数）



成年後見の担い手として市民後見人の役割が増えており、上小圏域でも市民後見人の養成が急務となっています。毎年1講座30人程度の受講を目指します。

---

【目標】 重点施策に掲げる目標値などは、障害者意向調査や各種統計情報により進行管理可能な指標として設定。



## (2) 障害者本人とその介助者の高齢化による将来的な不安の解消

### 【課題】

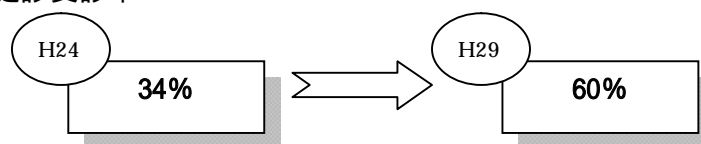
- ・ 障害のある人とその介助者の高齢化
- ・ 介助者亡き後の生活の不安
- ・ 生活習慣の見直しと疾病の予防

### 【取組】

- 介護予防・日常生活支援総合事業
- ・ 要支援者の介護要望事業への参加、介護予防サポーターの養成、介護予防が必要な高齢者の把握 など
  - ・ 地域包括支援センターの相談機能の充実
  - ・ 障害のある高齢者に対する地域包括的ケア体制の構築
  - ・ 各種健診の受診や健康づくり講習会の開催
  - ・ 住民支え合いマップの作成
  - ・ 支援が必要な高齢者や障害のある人の情報を地図上に落とし込み、地域で情報を共有し、災害時の支援体制や日ごろからの支援活動に活用

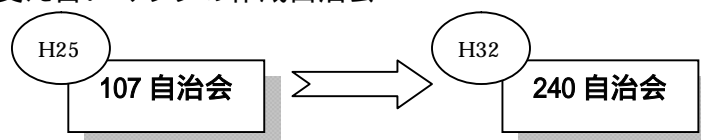
### 【目標】

#### 特定健診受診率



国民健康保険加入者の40歳～74歳の人(施設等入所者を除く)の特定健診受診者の割合で、国の基準により算出した数値です。

#### 住民支え合いマップの作成自治会



災害時要援護者登録制度に基づく住民支え合いマップを市内の全自治会で作成します。

### (3) 雇用・就労による生活の質の向上

#### 【課題】

- ・ 就労意欲の向上
- ・ 職場環境の整備
- ・ 福祉的就労の場での工賃アップ

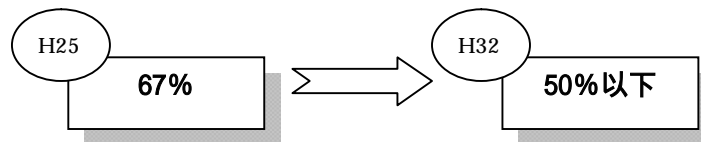
#### 【取組】

##### 就労に対するサポート支援策

- ・ **トライアル雇用事業**  
障害者の雇入れ経験がない事業主等による、障害者の試行雇用
- ・ **職場適応援助者（ジョブコーチ）による支援**  
知的障害・精神障害のある人のためのジョブコーチの派遣
- ・ **就労支援事業**
  - ・ **就労移行支援事業**  
通常の事業所で働くことが可能な人のための就労訓練
  - ・ **就労継続支援事業（雇用契約のある：A型 雇用契約のない：B型）**  
通常の事業所で働くことが困難な人への就労場所の提供
- ・ **障害者就労施設からの物品等の調達**
  - ・ 国や地方公共団体などの公的機関が、物品やサービスを調達する際、障害者就労施設などから優先的・積極的に購入

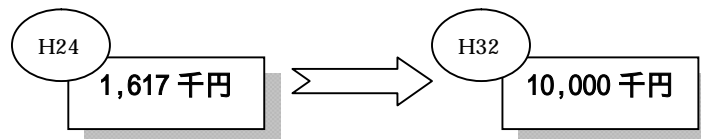
#### 【目標】

##### 就労が困難と感じる人の割合



障害者意向調査により、障害などの理由により就労が困難と感じる人の割合を50%以下となるよう、雇用・就労の施策の充実を図ります。

##### 障害者就労施設からの物品などの調達



市の物品などの調達・役務の提供での障害者就労施設への発注を増やします。

#### (4) 教育・育成体制の整備による住み慣れた地域での暮らしの確保

##### 【課題】

- ・ 乳幼児期からの障害の早期発見と支援
- ・ 発達障害児の療育と教育支援の充実
- ・ 障害のある子どもの放課後の居場所づくり

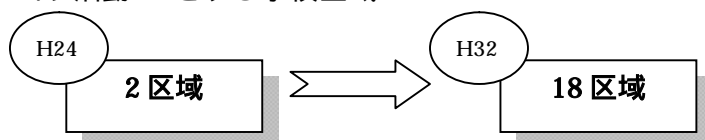
##### 【取組】

###### 乳幼児健診の充実

- ・ 乳幼児自閉症チェックリストの導入と健診後の相談体制の充実  
相談及び家族支援（発達相談センター）
- ・ 臨床発達心理士・保健師・作業療法士・言語聴覚士及び専門医師による個別相談
- ・ペアレントトレーニング  
保護者が子どもの障害や行動の理解、関わり方などを研修  
特別支援教育支援員やボランティアの配置
- ・ 各学校の状況に応じて特別支援教育支援員やボランティアを配置  
ぶれジョブ活動への支援  
放課後等の社会資源の開発
- ・ 放課後等デイサービス事業（学校授業終了後や休業日に生活能力の向上に必要な訓練や社会との交流の促進などを提供）

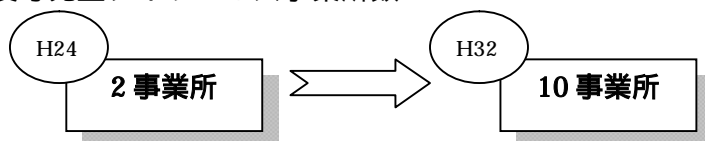
##### 【目標】

###### ぶれジョブ活動<sup>11)</sup>をする学校区域



市内全小・中学校区域の半数の区域での活動を目指します。

###### 放課後等児童デイサービス事業所数



障害のある子どもの放課後活動の支援のため、児童発達支援事業者などによる放課後等児童デイサービス事業の展開を支援します。

## 分野別施策

### 1. 生活支援

#### (1) 相談支援体制の構築

【現状と課題】

障害のある人に対する福祉サービスは、市民に最も身近な基礎的自治体である市町村が主体となって実施しています。

平成 25 年 4 月に障害者自立支援法が、障害者総合支援法として施行され、難病患者<sup>13)</sup>も障害福祉サービスの対象範囲に加えられたことから、よりきめ細やかで適切なサービスの提供が必要です。このため、適正な障害福祉サービスの利用計画の作成に向けて相談支援事業者の一層の体制充実と資質の向上が求められます。

骨格提言での指摘事項	障害福祉施策（サービス）の推進			
	平成 22～24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
【1. 法の理念・目的】・【範囲】	障害者基本法改正（H23.8）	● 目的：「基本的人権を享有する個人としての尊厳」を明記 ● 基本理念の創設		
【2. 障害の範囲】		● 障害福祉サービス等の対象に新たに難病の者などを追加		
【3. 支給決定】			▲ 障害程度区分を障害支援区分に見直し ▲ 障害支援区分を含めた支給決定のあり方について検討 →	
【4. 支援体系】	●	● 地域生活支援事業の追加	▲ ケアホームのグループホームへの一元化 ▲ 重度訪問介護の対象拡大	
【5. 地域移行】			▲ 地域移行支援の対象拡大	
【6. 地域生活の基盤整備】		● 自立支援協議会の名称の弾力化と当事者や家族の参画の明確化 第3期障害者福祉計画（H24～26）		第4期計画（H27～）
【7. 利用者負担】	市町村民税非課税世帯の利用者負担無料（H22.4～） 応能負担を原則とすることを法律上も明記（H24.4～）			
【8. 相談支援】 【9. 権利擁護】		● 知的障害者福祉法に市町村の成年後見等の体制整備の努力義務を規定		
【10. 報酬と人材確保】	基金事業により福祉・介護職員の処遇改善		→ 報酬改定で処遇改善加算（H24.4～）	→ 報酬改定
【主な法改正等】	障害者虐待防止法（H24.10）	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の一部改正（H25.5）	障害者差別解消法（H25.6） 障害者の雇用の一部を改正する法律（H25.6）	（施行H28.4）

13) 難病患者 治療方法が確立していない疾病その他の特殊の疾病を持つ十八歳以上である者。現在 130 種の疾患の患者が障害福祉サービスの対象となっている。

## 【施策の方向性】

障害のある人が身近な地域で相談支援を受けられる体制を構築するため、上小圏域障害者総合支援センターを基幹センターと位置付け、相談支援事業所での相談及びサービス等利用計画の作成により利用者のニーズに応じたサービスを提供するとともに、サービスの見直しによりきめ細やかな支援を図ります。

発達相談センター（ひとまちげんき・健康プラザうえだ内に設置）<sup>14)</sup>では、関係機関と連携して発達に心配のある子どもや家族に対して相談支援を行うとともに、支援体制の充実を図ります。

交通事故や病気などが原因で脳の損傷があり、理解や判断などの機能が低下する高次脳機能障害については、医療機関などで行う「医学的リハビリテーション」との連携を密にし、個々のニーズにあった機能回復を図ります。

相談支援事業を効果的に実施するため、上小圏域障害者自立支援協議会<sup>15)</sup>の機能を強化し、中立・公平な相談支援事業の実施や関係機関の連携、社会資源の開発などを推進します。

障害のある人やその家族が住み慣れた地域で暮らすため、家族会への支援やピアカウンセリング<sup>16)</sup>による相談支援を行います。

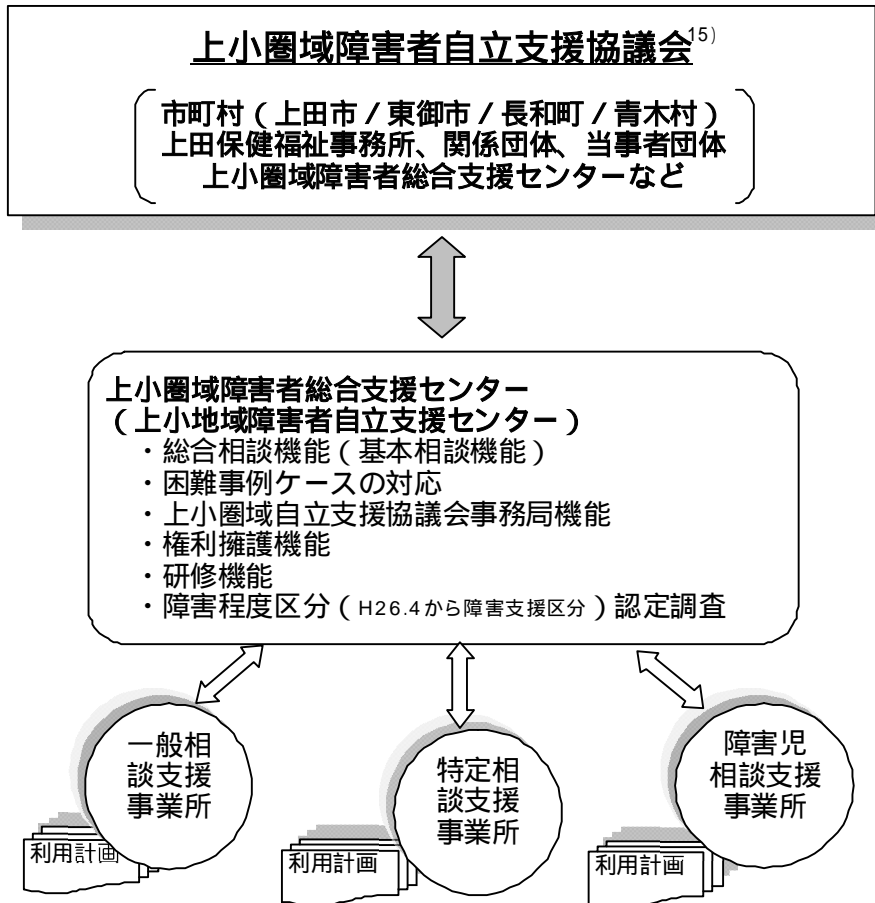
---

**14) 発達相談センター** 子どもたちの発達に関する相談や発達障害の早期発見、関係機関と連携しながら子どもたちのライフステージに応じた一貫した支援を継続的に行う。

**15) 上小圏域障害者自立支援協議会** 上小圏域に居住する障害のある人の福祉・医療・保健・就労に関する各種サービスの総合的な調整及び推進を図り、相談支援事業をはじめとした上小圏域全体でのシステムづくりに関する主導的役割を担う協議の場。

**16) ピアカウンセリング** 同じ様な悩みや問題を持った人同士で行う相談のこと。お互いに平等な立場で話を聞き合い、きめ細かなサポートによって、地域での自立生活を実現する手助けをする。

上小圏域障害者総合支援センターを中心とした  
相談支援事業体制のイメージ



## (2) 障害福祉サービスなどの充実

### 【現状と課題】

障害者自立支援法の施行後、障害福祉サービスの一元化により障害の種別に関係なく統一したサービスが提供され、この5年間で障害者福祉施策にかかる市の予算は1.6倍の予算規模となり障害福祉サービスなどの充実が図られてきました。

障害のある人が、住み慣れた地域で安心して生活していくためには、地域内の限られた社会資源を有効に活用していくことが必要です。

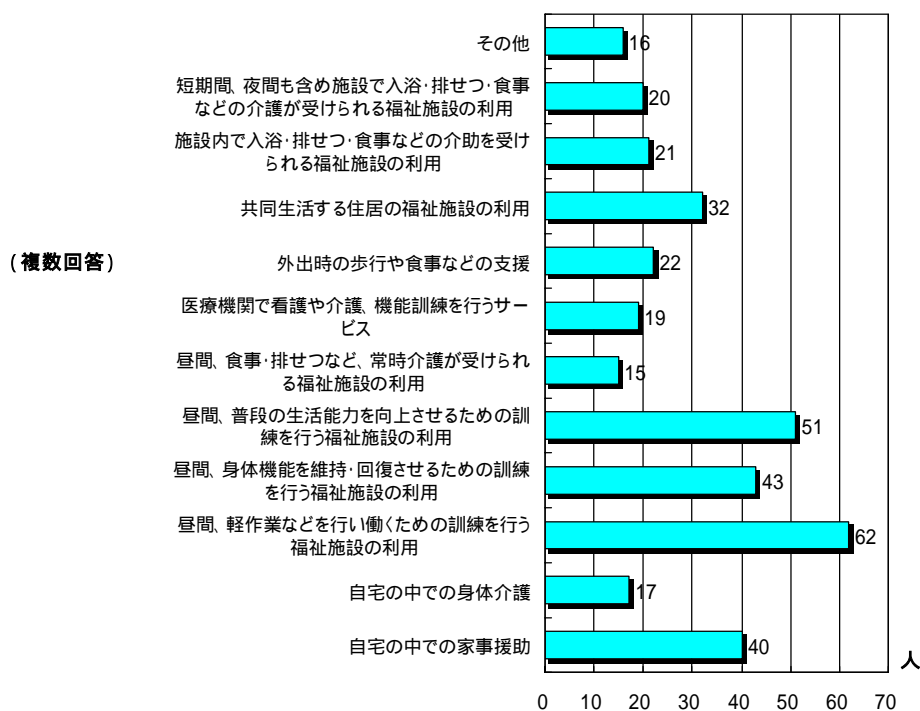
特に在宅の重症心身障害児・者が日常生活または社会生活を営む上で、日中活動の場、住まいの場などの社会資源の充実は継続した課題となっています。

障害のある人とその介助者の高齢化に伴い、本人への支援ばかりでなく、介助者への支援も必要となっています。

さらに、平成26年4月から重度訪問介護の対象が、従来の重度の肢体不自由者に加え知的障害者・精神障害者にも拡大されます。このため、適切な支給決定と障害福祉サービスの提供が求められます。

### 【障害者意向調査より】

今後も継続して利用したい障害福祉のサービスや、新たに利用したいと思うサービスについて



## 【施策の方向性】

利用者の実態、ニーズなど当事者の要望を反映したサービス等利用計画の作成と障害福祉サービスの提供に努めます。

上田市つむぎの家<sup>17)</sup>を中心とした重度心身障害児・者への支援のほか、医療や介護、教育などの関係機関との連携により医療的ケアの必要な障害のある人への支援を充実します。

障害のある人が住み慣れた地域で暮らし続けるために、地域の社会資源の有効活用として、高齢者介護施設の活用の可能性について検討を進め、障害福祉サービスの提供拡大を図ります。

NPO 法人などが行う「福祉有償運送サービス<sup>18)</sup>」の充実や事業所の適正な運行管理に向けて上田市福祉有償運送運営協議会を開催し、利用者の利便性と安全の向上を図ります。

また、障害状況に応じて自動車の改造に対する費用や運転免許証取得費用の助成制度などにより、障害のある人の生活圏の拡大を促進します。

障害のある人を支える家族や支援者のレスパイト<sup>10)</sup>施策(放課後支援や短期不在時支援など)の充実を図ります。

重度訪問介護の対象者が拡大されることから、重度の障害のある人に対する総合的な支援のあり方を検討します。

---

17) 上田市つむぎの家 重症心身障害児・者を対象とし、食事や排泄、入浴、健康管理などを実施し、日中活動や集団生活に適應できるよう支援する通所施設。

18) 福祉有償運送サービス NPO法人などが、身体障害者などであらかじめ登録された会員に対して、実費の範囲内で、乗車定員11人未満の自動車を使用して行う、ドア・ツー・ドアの個別輸送サービス。



### (3) 障害児支援の充実

#### 【現状と課題】

平成 24 年度の児童福祉法改正により障害のある子どもへの支援の強化が図られました。従来の障害種別で分かれていた障害児施設や事業が、どのような障害があっても身近な地域で支援を受けられるようにするため、通所による支援を行う施設が児童発達支援センターに、入所による支援を行う施設が障害児入所施設に、利用形態ごとに一元化されました。

また、平成 22 年度に開設された発達相談センター（ひとまちげんき・健康プラザうえだ内に設置）<sup>14)</sup>では、相談件数が 2 年間で 2 倍となっています。保育園・幼稚園では、発達が気になる児童の数は、この 5 年間で 262 人（平成 20 年度）から 435 人（平成 24 年度）と 4 割ほど増えていることから、直接児童に接する保育士などが障害への理解を深めることが求められています。

障害のある子どもには、身近な地域でその子にあった支援と療育が 18 歳まで切れ目なく一貫して行われ、障害の程度・成長段階に応じて、能力を向上し、自己実現を図るための支援の重要性が高まっています。

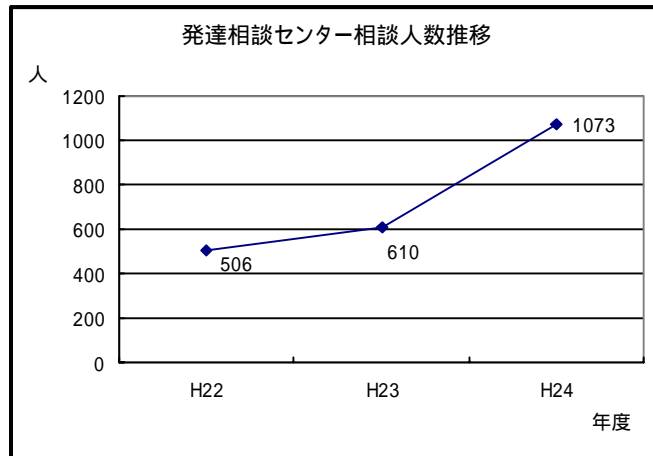
発達障害（診断が確定していない場合も含む）は、早期に発見することによって、周囲が子どもの特性を理解し、共有しながら適切な支援をすることで、二次障害<sup>19)</sup>を防ぐことも可能です。障害のある子どもを支える保護者への相談支援体制の充実と保護者に寄り添った支援も必要です。

さらに、障害のある子どもの放課後対策は、学童保育所、児童クラブ、放課後等デイサービスがありますが、障害特性に応じた利用形態や施設などの整備も必要です。

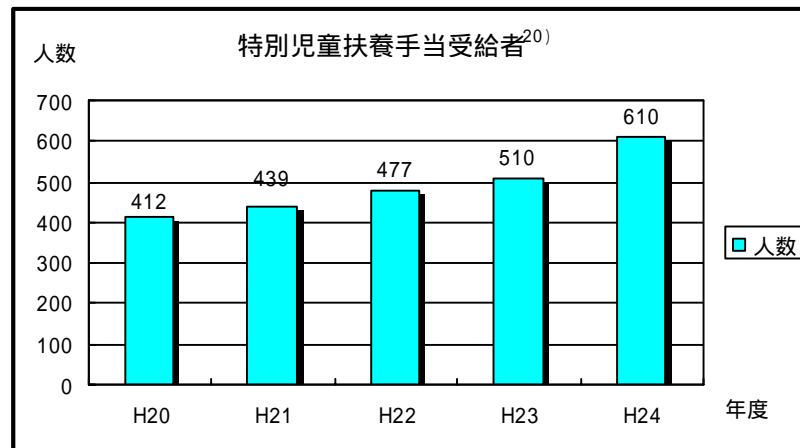
---

19) 二次障害 心理的な影響：ひきこもり、不登校、学習意欲の低下・欠如、学習の遅れ、対人恐怖症など。

行動障害：行為障害（暴力的、非行、攻撃的になる）など。その他：ネット依存症、ゲーム中毒など。



資料：子育て・子育て支援課



資料：福祉課

20) 特別児童扶養手当 精神、知的または身体に一定の障害のある児童の福祉の増進を図ることを目的として、児童を監護する父または母に支給される手当。

## 【施策の方向性】

障害のある子どもの発達を支援するため、発達相談センター（ひとまちげんき・健康プラザうえだ内に設置）<sup>14)</sup>の専門職の充実と専門医師との連携により、障害のある子ども及びその家族に対して、乳幼児期から学校卒業後まで一貫した効果的な支援を提供します。

児童相談所と連携した巡回相談を通して、支援が必要な子どもの状況を把握し、指導や支援について助言をします。

先天的疾患・障害は、生後すぐに発見できる場合と、経過とともに発症し、発見までに時間がかかる場合があります。このため、乳幼児自閉症チェックリストの導入など乳幼児健診事業の見直しや健診後の相談体制を充実し、早期発見・早期治療を図り、必要な療育につなげます。

障害のある子どもを受け入れる保育所などのバリアフリー化の促進と適切な保育や就学に向け、保育士のスキルアップを図るとともに、保護者に対する相談事業を充実します。

障害のある子どもの放課後対策について、障害特性に応じた支援の検討や指導員の配置、施設などの整備の充実を図ります。

## 2. 保健・医療

### (1) 障害の原因となる生活習慣病の発症予防と重症化予防の推進

#### 【現状と課題】

平成 24 年度に上田市では「第二次上田市民総合健康づくり計画」を策定し、保健活動の基本的な方向性と、その実現に向けた施策を明確にしました。

また、ひとまちげんき・健康プラザうえだ内の総合保健センターでは、疾病予防や健康増進などに関する各種事業を実施しています。

次世代を担う子どもの健康づくりのためには、思春期から妊娠期、子育て期へと切れ目のない健康づくりと相談体制の充実が必要です。

脳血管疾患や糖尿病など動脈硬化による生活習慣病は、40 歳～64 歳で介護保険を利用する第 2 号被保険者<sup>21)</sup>の原因疾患の多くを占め、身体障害者手帳の取得年齢も、40 歳台から急激に増えています。このため、身体障害の遠因となる動脈硬化による生活習慣病の予防を行うことが重要です。

特に、糖尿病は、糖尿病性腎症や糖尿病性網膜症などの重篤な合併症を引き起こすことから、重症化予防、適切な治療の開始、継続受診のための支援や各種保健指導・健康教室の充実が必要です。

高齢期には加齢に伴う生活機能低下（ロコモティブシンドローム<sup>22)</sup>など）のリスクを下げる必要があります。

メタボリックシンドローム該当者・予備群（40～74歳）<sup>23)</sup>

（平成25年3月末現在）

	男性			女性			合計
	総数	40～64	65～74	総数	40～64	65～74	
被保険者数	13,289	6,437	6,852	14,094	6,488	7,606	27,383
健診受信者数	3,793	1,206	2,587	5,251	1,827	3,424	9,044
受信率	28.5%	18.7%	37.8%	37.3%	28.2%	45.0%	33.0%
予備群	709	233	476	343	115	228	1,052
該当者	944	300	644	400	117	283	1,344

再掲重複あり

年度	H20	H21	H22	H23	H24
特定健診受診者数	8,628	8,457	8,385	9,055	9,044

資料：健康推進課

21) 介護保険第 2 号被保険者 40～64 歳で、特定の 16 種類の疾病にかかっている人で、要介護認定を受けて介護保険のサービスが受けられる。

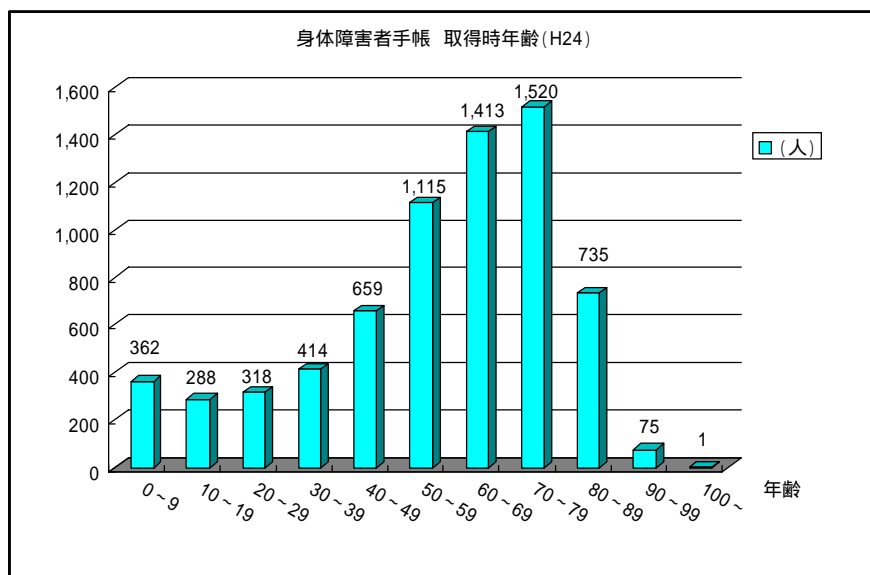
22) ロコモティブシンドローム 骨・関節・筋肉など体を支えたり動かしたりする運動器の機能が低下し、要介護や寝たきりになる危険が高い状態。運動器のことを英語で locomotive organ ということから名。

23) メタボリックシンドローム 内臓脂肪型肥満に加えて、高血糖、高血圧、脂質異常のうちいずれか 2 つ以上をあわせもった状態。

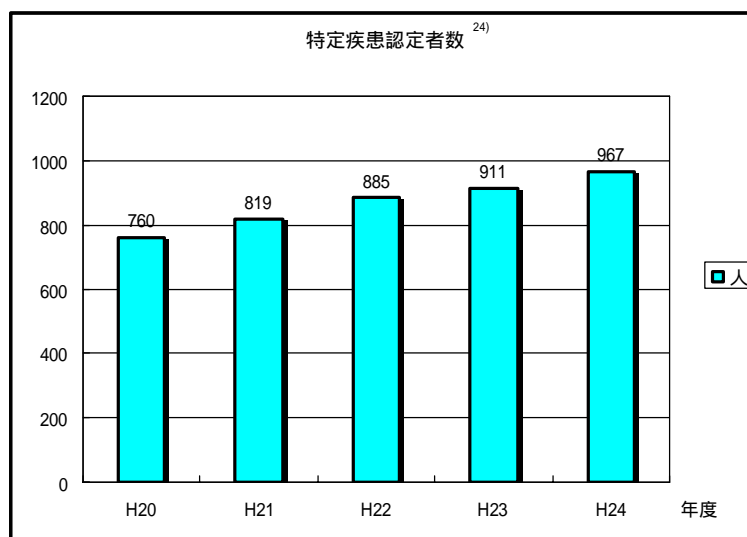
さらに、高齢化社会の進展に伴い、介護予防は非常に重要となっており、自分らしい生活を送るためには、健康維持や疾病・介護予防に向けた切れ目のない施策展開が必要です。

特に「介護予防」については、日常の身体活動量を増やすこと、さらに運動習慣を持ち、日々の生活に必要な健康と身体活動の維持につなげる必要があります。

障害者総合支援法の施行により、障害福祉サービスの対象に加えられた障害者手帳を持たない難病患者<sup>13)</sup>への支援の充実も必要となっています。



資料：福祉課



資料：上田保健福祉事務所

**24) 特定疾患認定者** 難治性疾患克服研究事業 130 疾患のうち、国及び県が指定する特定疾患（国指定：56 疾患、県単独指定：2 疾患）について、治療に要する保険医療費の自己負担分を公費負担している。

## 【施策の方向性】

第二次上田市民総合健康づくり計画の中で位置付ける「ライフステージに応じた健康づくり」を年齢期に応じて展開を図ります。

### 妊娠期

妊娠・出産をめぐる相談の実施と知識の普及を図り、妊娠期と幼児期からの健やかな生活習慣形成に向けた施策を推進します。

### 幼少期

すべての子どもが健康で個々に応じた成長ができるための知識と、母子の適切なかわりについて普及・啓発するとともに、相談体制の充実を図ります。また、必要な場合は、関係機関と連携を取り、総合的な支援を提供します。

### 思春期

思春期の健康づくりに関する正しい知識の普及・啓発に努め、学校等関係機関と連携した健康教育を実施します。

### 青・壮年期

個々の健康状態に応じた保健指導として、生活習慣（食と運動）の見直しと改善につなげ、特定健診等各種健（検）診の受診率の向上を図ります。また、健（検）診結果に基づいた相談事業などの充実を図り、生活習慣病の発症予防、重症化予防に努めます。

個人に合った取り組みやすい健康づくりの各種講座を実施し、積極的な参加を促進します。

身体機能の低下が徐々にみられる壮年期から、自らの身体機能の状況を自覚し高めていく生活スタイルを確保できるような支援の充実を図ります。

## 高齢期

介護予防の周知・啓発活動を積極的に行うとともに、地域包括支援センターを中心に、予防活動を含めた包括的ケアを推進します。

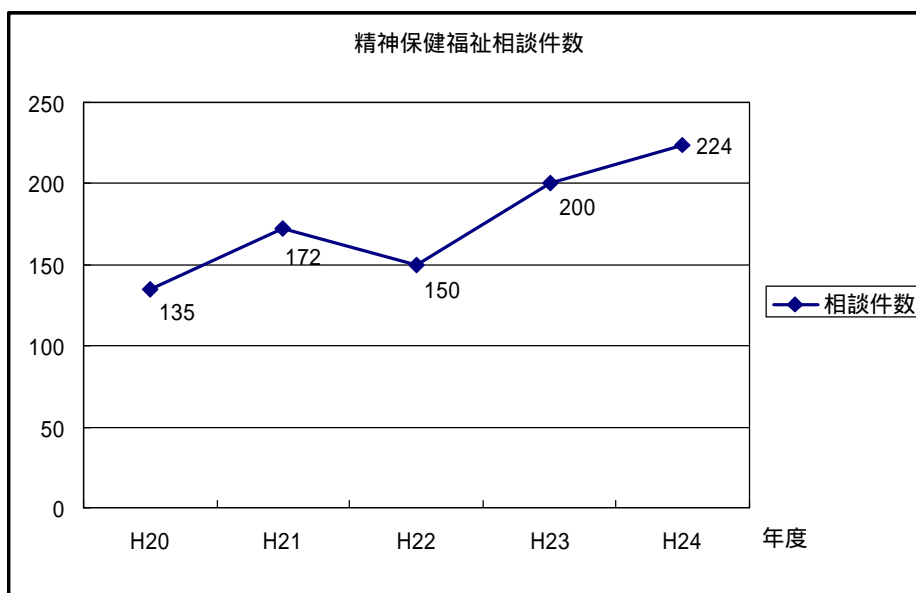
難病患者<sup>13)</sup>の在宅生活を支援するため、快適な療養生活が送れるよう医療機関や保健福祉事務所などの関係機関と連携します。

## (2) 精神保健・医療・福祉の充実

### 【現状と課題】

精神障害者保健福祉手帳の所持者は、この5年間で300人以上増加し、精神疾患に起因する生活困窮者や自殺者の増加などの課題があるほか、精神障害者のニーズに適切に対応できる障害福祉サービスの提供が必要となっています。また、精神保健や精神障害者に対する正しい理解と地域住民への啓発（心の健康・予防・相談体制・地域の理解など）を行うとともに、お互いに見守り支え合う地域支援の環境づくりの推進が必要です。

さらに、長期入院患者が退院後、地域生活を継続していくために、地域生活支援事業<sup>25)</sup>を充実していく必要があります。



資料：健康推進課

25) 地域生活支援事業 障害のある人が、自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、地域の特性や利用者の状況に応じて実施する事業。相談支援事業、成年後見制度利用支援事業、日常生活用具給付等事業、移動支援事業などがある。



【施策の方向性】

こころの健康づくりに対する意識が高まり実践できる人が増えるよう正しい知識の普及・啓発に努めます。

こころの健康や病気をサポートするための体制づくりを推進します。

精神疾患の治療にかかる経済的負担を軽減し、社会復帰・社会参加を支援するため、自立支援医療制度（精神通院医療）<sup>7)</sup>の適用を推進します。

精神障害者が地域で安心して暮らせるために医療、保健、福祉の連携を強化し、互いに見守り、支え合う地域支援、環境づくりを推進します。

### 3. 教育・文化芸術活動、スポーツ活動

#### (1) インクルーシブ教育<sup>12)</sup>の構築

##### 【現状と課題】

少子化の進行により、小学校・中学校ともに児童・生徒の総数は減少していますが、支援学級に入級する児童・生徒は、増加傾向にあります。

障害のある子どもについては、その能力や可能性を最大限に伸ばし、自立や社会参加を図るため、一人ひとりの教育的ニーズの把握が必要です。

また、障害のある児童・生徒が差別的な取り扱いを受けることなく、障害のない児童・生徒と共に教育を受けることが求められています。

多様な学びの場の整備と幼・保・小・中・高など就園、就学、就労に向けて継続的支援を学習や生活の面で効果的に行う必要があります。

さらに、通常学級での学習や生活を支えるために特別支援教育支援員と教員がより連携して支援に当たれるよう指導力向上や活用方法の検討が必要であるとともに、特別支援学級担当教員の専門性の向上と教育内容などの充実が求められています。

平成21年度から25年度まで(5月1日現在)小中学校特別支援学級 児童生徒数

年度	小学校計					中学校計				
	支援学級				児童 総数	支援学級				生徒 総数
	学級	男	女	合計		学級	男	女	合計	
H21	44	116	54	170	9,349	22	58	31	89	4,748
H22	47	127	66	193	9,244	25	70	34	104	4,557
H23	49	135	66	201	9,132	25	76	36	112	4,553
H24	56	181	69	250	8,961	26	83	46	129	4,527
H25	56	197	82	279	8,868	27	91	43	134	4,410

資料：学校教育課

## 【施策の方向性】

教育現場で支援を必要とする子どもの自立と社会参加に向けて、支援員やボランティアの配置を充実して一人ひとりのニーズに応じた支援を行います。

就学指導委員会では、早期からの就学相談・支援や就学判断のみならず、就学後の状況に関して、教育内容及び指導方法などの支援を行い、必要に応じて「学びの場」の変更ができるようにします。

特別支援教育では、障害のある児童・生徒の能力を高め将来の社会参加につながるようソーシャルスキルトレーニング<sup>26)</sup>の研究を進めます。

地域社会では、まちづくりの一環として、ふれジョブ活動<sup>11)</sup>を行い、障害のある児童・生徒が「未来の地域をつくるなかま」となるよう支援していきます。

保育課や発達相談センター（ひとまちげんき・健康プラザうえだ内に設置）<sup>14)</sup>、教育相談所が連携し、「発達障害児支援のための情報共有ファイル」の活用など、成長段階に応じた切れ目のない支援を行います。

障害のある児童・生徒の就労については、特別支援学校、上小圏域障害者総合支援センター（上小地域障害者就業・生活支援センター）など関係機関・団体が連携して支援を行います。

---

26) ソーシャルスキルトレーニング 社会技能を身につけるための訓練。幼児教育や発達障害の指導、統合失調症のリハビリなどに利用される。

## (2) 教育環境の整備

### 【現状と課題】

障害の有無に関わらず、子どもが共に学び、平等に教育を受ける権利の享有・行使を確保するための合理的な配慮が求められています。

安全・安心な教育環境の整備に向け、小中学校の耐震化・老朽校舎の改築とともに、学校施設のバリアフリー化を推進する必要があります。

また、多様な学びの場の整備として、通常の学級、特別支援学級、特別支援学校それぞれの環境の整備、充実が求められています。

### 【施策の方向性】

障害のある児童・生徒、一人ひとりの教育的ニーズに応じてコンピュータなどの情報機器を活用することにより、学習上又は生活上の困難を補い、指導の効果を高めていきます。

学校施設は災害時の避難場所でもあり、地域住民も利用するため、耐震化とバリアフリー化を積極的に推進します。

教職員の特別支援教育に関する知識の向上を図るとともに、特別支援コーディネーター連絡会を基盤として、連携の充実、教員全体の指導力の向上を図ります。

保護者に就学に関する情報や、子どもの理解や支援に関する情報などを十分に提供するとともに、保護者の思いに傾聴しながら、今後の支援や就学のあり方について相談を進めていきます。

障害を理由としたいじめの根絶を目指すとともに、深刻ないじめがあった場合には、学校だけで対応するのではなく家庭・教育相談所などと密接に連携しながら、相談活動や学校訪問、家庭訪問を積極的に行い、個々のケースに応じたきめ細やかな対応を行います。

### (3) 文化芸術活動、スポーツ活動などの振興

#### 【現状と課題】

障害の有無に関わらず、市民誰もが文化・芸術、スポーツ・レクリエーションなどを楽しみ、親しむことができるよう環境の整備や機会の確保が求められています。

市民が集い、文化の薫る新たなまちづくりの拠点となる交流文化芸術センター、市立美術館ではハード、ソフト両面で、障害のある人にとっても利用しやすい環境づくり、親しむことができる事業の展開が期待されます。

#### 【施策の方向性】

障害の有無に関わらず誰もがいつでも文化・芸術活動やスポーツに親しむため、移動支援や外出に関わる支援を積極的に活用します。

文化・芸術活動やスポーツの振興に関わる人材の育成と施設の整備を推進します。施設の整備に当たっては障害のある人などの利便性の向上を図り、誰もが利用しやすい施設になるよう整備を進めます。さらに、障害特性に応じた指導の充実を図ります。

文化の薫るまちづくりを進めるため、障害のある人の芸術鑑賞や創作活動を支援し、文化・芸術活動を通じた社会との交流の機会や生きがいの創出に努めます。

交流文化芸術センター、市立美術館では、障害のある人も利用しやすい施設となるよう、スタッフのサポート体制や設備の整備を進めます。

障害のある人の生涯学習の推進のために、地域の公民館や図書館などの環境整備を図るとともに、社会教育施設における活動を通じ、スポーツ・レクリエーションを楽しむ機会、芸術文化に親しむ機会、学習成果の発表の機会などを提供します。

「だれもが いつまでも スポーツに 親しむことができる まちづくり」を基本理念とする上田市スポーツ振興計画の実現に向けて、障害者スポーツ大会やスポーツ教室を開催するとともに、スペシャルオリンピックス<sup>27)</sup>の活動を支援し、身近にスポーツを楽しむ場をつくります。

---

27) スペシャルオリンピックス 知的発達障害のある人達に、さまざまなスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織。非営利活動で、運営はボランティアと善意の寄付によって行われている。

## 4 . 雇用・就労

### ( 1 ) 障害者雇用の促進

#### 【現状と課題】

障害のある人の就労意欲が着実に高まる中で、就労により自立し、地域で生活できるよう、障害者雇用施策は一層の充実が求められています。

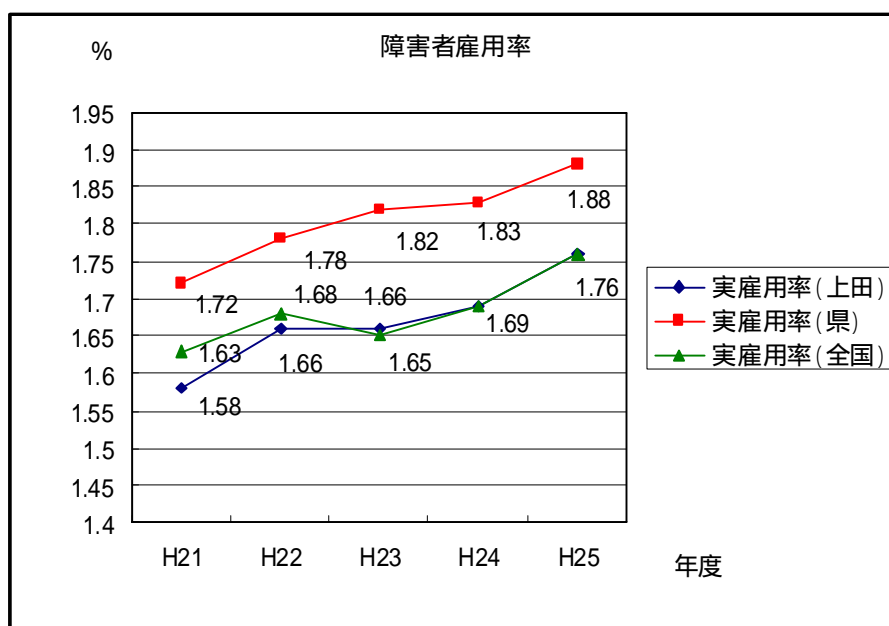
平成 25 年 4 月から、障害者法定雇用率が引き上げられるとともに、障害者雇用義務事業者の範囲も拡大されました。こうした中で上田市内では、障害のある人の雇用者数を増やす事業所がある一方で、法定雇用率が未達成の事業所も多いのが現状です。

障害のある人の働く機会を確保し、雇用率を向上させるためには、事業主への周知・啓発などにより、事業主の障害者雇用に対する理解を深める必要があります。

また、平成 25 年 6 月には障害者差別解消法が成立し、平成 28 年 4 月からは事業者に対して職場内などでの合理的配慮<sup>28)</sup>が求められます。

さらに、地方公共団体の法定雇用率が 2.1% から 2.3%( H25.4 )に変更されたことから、上田市役所も地域の一事業所として、障害のある人の法定雇用率の向上に努めていきます。

#### 【上田所管内の障害者雇用の状況(再掲)】



資料：上田公共職業安定所（ハローワーク上田）

28) 合理的配慮 事業主に職場で働くに当たっての支障を改善するための措置を講ずることが義務付けられ、具体的内容は、国の労働政策審議会障害者雇用分科会の意見を聴いて、指針が策定される。

## 【施策の方向性】

上田公共職業安定所（ハローワーク上田）、上小圏域障害者総合支援センター（上小地域障害者就業・生活支援センター）、ジョブながのライフサポートセンター、若者サポートステーション・シナノなど関係機関と連携するとともに、事業所訪問により、事業主に対する障害者雇用への啓発を促進し、障害者雇用への理解を深めます。

上田市役所における障害者法定雇用率の向上に努めます。

障害のある人の就労環境を守るため、就労相談に対して、コーディネーターによる相談事業を実施します。

障害のある人の自立と社会参加を支援するために、障害を理由とした解雇などの差別的な扱いを禁止するとともに、職場内などでの障害のある人への配慮を事業主などへ働きかけます。



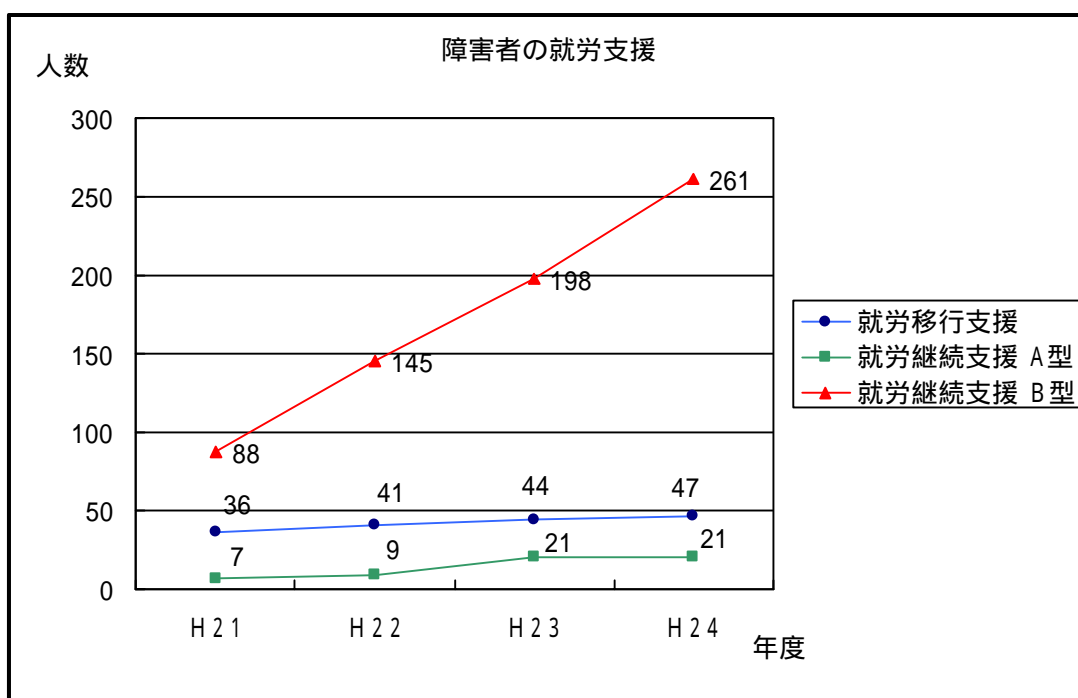
## (2) 総合的な就労の支援

### 【現状と課題】

障害のある人の就労に関しては、職業訓練中や就労後におけるフォローアップ体制や適切なサービス利用に対する指導、助言を行うための相談窓口を充実させる必要があります。

自己の能力に適した就労の選択や、就労後の職場への定着化を促進するため、その前段階における就労訓練及びサポート支援施策が重要です。

障害のある人が、個々の障害特性や個性を尊重され、いきいきとした生活が送れるためには、就労環境の整備も重要です。



#### 就労移行支援

資料：福祉課

就労を希望する人に生産活動、その他の活動の機会の提供を通じて、就労に必要な知識及び能力向上のために必要な訓練などを行う。(65歳未満の希望者)

#### 就労継続支援

通常に事業所に雇用されることが困難な人に、就労の機会を提供するとともに、生産活動のための活動の機会の提供を通じて、その知識及び能力向上のために必要な訓練などを行う。(A型：雇用契約のある65歳未満、B型：雇用に結びつかない人)

## 【施策の方向性】

障害のある人の就労促進に向けて、雇用促進室に配置されている専門の相談員による就職・労働・生活相談や上田公共職業安定所(ハローワーク上田)などと連携しながら、トライアル雇用や職業適応援助者(ジョブコーチ)による支援などを実施します。

長野障害者職業センターの職業リハビリテーションなどの利活用を促進し、早期の就労につながるよう努めます。

職場への不適合などを理由とした解雇が生じないように、関係機関と連携し、就労後のフォローアップ体制の強化、職場での定着化を促進します。

高校・大学在学中の長期休暇を利用した、就労移行事業所の利用により、障害の受容・就労意欲の向上を在学中から支援します。

障害のある人の多様な職業形態として創業・起業は、個々の特性に合わせた就労が可能となり、障害のある人の社会参加の機会や経済活動の拡大にもつながります。創業・起業に向けた情報提供を行うとともに、関係機関と連携した支援のあり方を検討します。

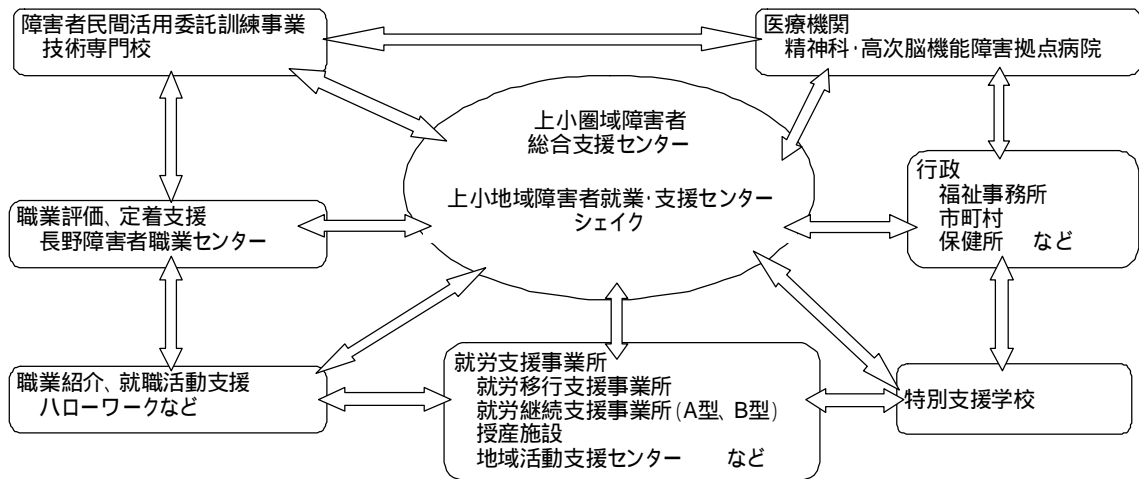
### (3) 障害特性に応じた就労支援及び多様な就業の機会の確保

#### 【現状と課題】

障害のある人などが、個性と能力を最大限に発揮し、生活面での自立や生きがいとして自ら選択した仕事に専念するためには、障害特性に応じた雇用・就労への支援が必要不可欠となっています。

特に福祉的就労施設<sup>29)</sup>は、一般就労が困難な障害のある人にとって「社会活動の場」、「社会参加の場」として重要であり、大きな役割を担う場所となっています。しかしながら、仕事の内容が軽作業を中心としていることもあり、「働く場」としては、工賃が低い状況にあります。

障害者就労支援ネットワーク 上小概要図



29) 福祉的就労施設 障害福祉サービス事業所などでの就労。

## 【施策の方向性】

精神障害に関する事業主などの理解を一層深めるとともに、障害の特性に応じた支援の充実・強化を通じて、精神障害者の雇用拡大を図ります。

精神障害者に対する就労支援に当たっては、上小圏域障害者総合支援センター（上小地域障害者就業・支援センター）などが医療機関と連携を図りつつ、「医療」から「雇用」に向かう体制整備を図ります。また、上田公共職業安定所（ハローワーク上田）などにおいて発達障害者、難病患者<sup>13)</sup>などに対する専門的な支援を充実します。

短時間労働や在宅就業など障害のある人が多様な働き方を選択できる環境の整備を支援します。

就労支援事業所同士の連携や情報の共有など、工賃向上に向けた事業所の取組を支援します。

障害のある人の就労訓練及び雇用を目的とした農園の開設及び農園の整備については、関係者・機関などの意向を踏まえて調査・研究を進めます。

市における物品、役務などの福祉施設などからの優先的・積極的な調達に向けた基本方針を作成し、年度の終了時には調達の実績を公表します。

### 就労支援関係機関

上田公共職業安定所（ハローワーク上田）	求職者には就職（転職）についての相談・指導、適性や希望にあった職場への職業紹介、雇用保険の受給手続きを、雇用主には雇用保険、雇用に関する国の助成金・補助金の申請窓口業務や、求人の受理などのサービスを提供する。
上小圏域障害者総合支援センター（上小地域障害者就業・生活支援センター）	就職を希望されている障害のある方、あるいは在職中の方が抱えている課題に応じて、就業面と生活面の一体的な支援を行う
ジョブながのライフサポートセンター	求職者と企業のマッチングなどの失業や離職者の各種支援活動を行う。
若者サポートステーション・シナノ	働くことに悩みを抱えている15歳～39歳までの若者に対し、キャリア・コンサルタントなどによる専門的な相談、コミュニケーション訓練などによるステップアップ、協力企業への就労体験などにより、就労に向けた支援を行う。
長野障害者職業センター	ハローワーク（公共職業安定所）と協力して、就職に向けての相談、職業能力等の評価、就職前の支援から、就職後の職場適応のための援助まで、個々の障害者の状況に応じた継続的なサービスを提供する。

## 5. 生活環境

### (1) 住み慣れた地域で生活できる住宅の確保

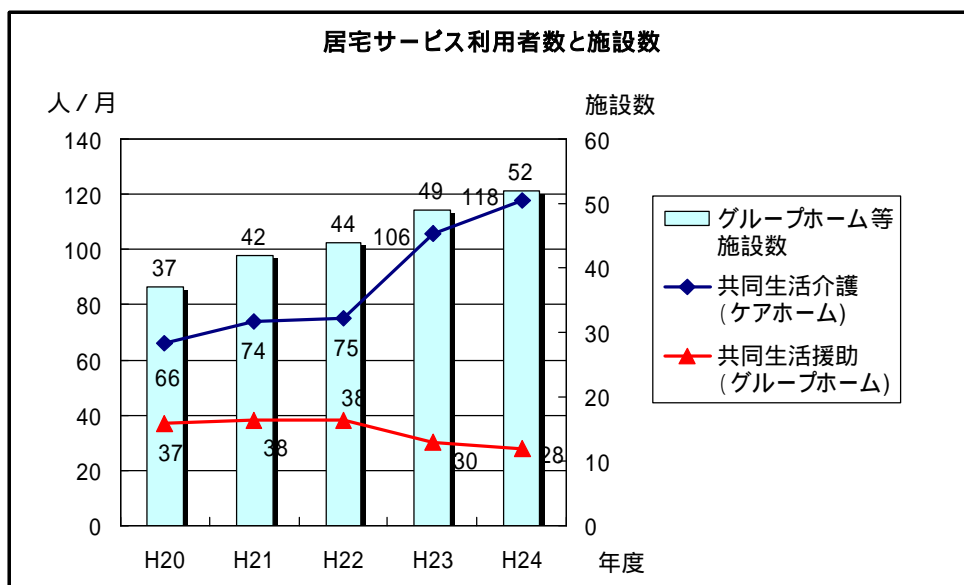
#### 【現状と課題】

障害のある人の自立と社会参加を支援し、誰もが住み慣れた地域で快適で暮らしやすい生活環境の整備が求められる中で障害のある人も高齢化が進展し、今後も住宅環境のバリアフリー化は重要です。

そのため、あらかじめ障害のある人の健康状態やライフステージの変化に対応して、家族や住宅サービスのサポートを受けやすくする工夫が求められています。

「上田市市営住宅等ストック総合活用計画」<sup>30)</sup>の基本理念である「誰もが良質で安定した居住を確保し、安全、安心、快適に暮らせる住宅づくり」を踏まえ、公営住宅においても、日常生活の基盤である住宅環境でのバリアフリー化を進める必要があります。

平成26年4月にはグループホーム<sup>6)</sup>とケアホームの一元化も行われます。これにより障害のある人の高齢化・重度化に対応して、介護が必要になっても、本人の希望によりグループホーム<sup>6)</sup>を利用し続けることができるようになります。



資料：福祉課

30) 上田市市営住宅等ストック総合活用計画 平成22年3月に策定した「上田市住生活基本計画(上田市住宅マスタープラン)」を上位計画とし、公営住宅施策の基本的方向性を示すことを目的とした計画。市営住宅等の活用手法等に関する基本方針を示し、建替事業や改善事業等の整備計画として位置付けられる。計画期間：平成22年度～平成27年度

## 【施策の方向性】

公営住宅のバリアフリー化の推進とあらゆる人が利用しやすいユニバーサルデザイン<sup>31)</sup>の普及を図ります。

障害のある人が住み慣れた地域で自立して生活できる受け皿づくりを進めるため、公営住宅のグループホーム<sup>6)</sup>などへの利活用を推進します。

障害のある人が居住する住宅のバリアフリー化のための住宅改修費の助成を行います。

住宅の増改築や介護機器について、利用者の利便性を向上するため、相談体制の充実を図ります。

グループホーム<sup>6)</sup>などでの地域生活が送れるよう、在宅及び入所、入院中の障害のある人などの自立意欲向上に向けて、身近にあるグループホーム<sup>6)</sup>への体験入所を支援します。

グループホーム<sup>6)</sup>での安全・安心を確保するため、地域の自主防災組織に平常時の連携体制の構築と災害時における入居者に対する避難誘導の協力体制の構築などを働きかけます。

グループホーム<sup>6)</sup>の建築基準法、消防法の適合について、関係機関に周知徹底を図るとともに、相談体制の充実を図ります。

---

31) ユニバーサルデザイン 障害の有無に関わらず、すべての人が快適に利用できるように製品や建造物、生活空間などをデザインすること。

## (2) 公共的施設などのバリアフリー化など障害者に配慮したまちづくりの推進

### 【現状と課題】

介護が必要な高齢者や障害のある人（移動困難者）の移動手段は、タクシーや自家用車などの個別輸送手段への依存が高い状況であり、今後も障害のある人や介助者の高齢化の進展に伴い、移動困難な人の増加が見込まれます。

「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザイン<sup>29)</sup>の考え方を踏まえた「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」により、施設などの新設に当たり「移動等円滑化基準<sup>32)</sup>」への適合義務、既存の施設などに対する適合努力義務が定められています。

また、公共施設などの整備や利用を進める上で、障害の多様な違いにも留意する必要があります。

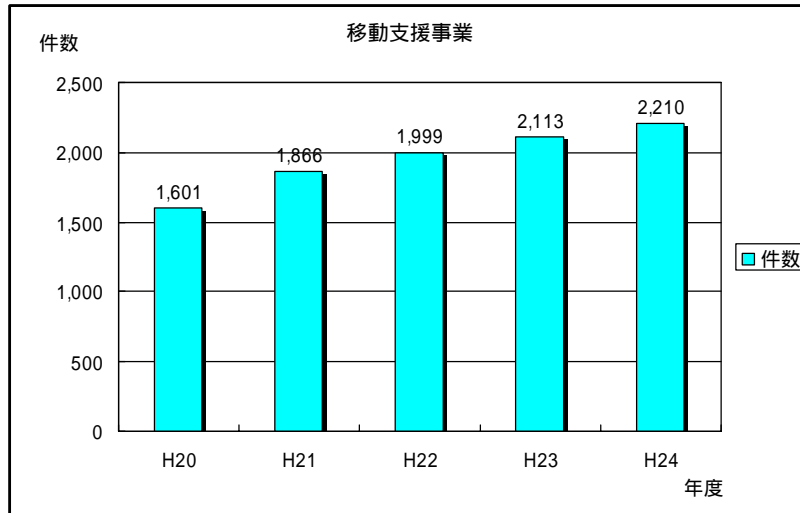
障害の有無・種別に関係なく、誰もが利用しやすい環境（アクセシビリティ<sup>33)</sup>）の整備を今後も継続していくことが重要です。

さらに、地域に住む人々がお互いに譲り合い、協力し合う「ソフト面（心のバリアフリー<sup>4)</sup>）」での啓発活動を進め総合的な「バリアフリー化」を推進していくことがますます求められています。

---

**32) 移動等円滑化基準** 高齢者、障害のある人の自立した日常生活及び社会生活を確保するため、公共交通機関の旅客施設や車両、道路、駐車場、公園、建築物の構造や設備の改善や、一定の地区における旅客施設、建築物やこれらの間の経路を構成する道路、駅前広場、通路その他の施設の一体的な整備を推進して、高齢者、障害のある人の移動や施設利用の利便性、安全性を向上させることを目的とした基準。

**33) アクセシビリティ** 年齢や障害の有無に関わらず、誰でも必要とする情報に簡単にたどり着け、利用できること。



資料：福祉課

移動困難者の外出支援、自立生活（買い物）、社会参加促進（行事、レクリエーション）  
 児童の割合が多く、身体介護「あり」と「なし」、個別支援とグループ支援がある。

#### 【施策の方向性】

さまざまな機能が集約された都市構造への誘導を図り、障害の有無に関わらず、快適な都市空間と身近な自然環境が享受できるまちづくりを進めます。

障害の有無に関わらず上田市を訪れる観光客に対する利便性の向上を図るため、障害の多様性を踏まえた案内表示の設置や施設の整備について関係機関へ働きかけます。

公共的施設の改修・改築に当たってアクセシビリティ<sup>33)</sup>の拡大に向け、ユニバーサルデザイン<sup>24)</sup>に配慮した施設整備を進めます。

交通事業者と連携して、障害のある人の利用に配慮した公共交通の確保・維持を図るとともに、利用環境の改善などを通じて利便性の向上に努めます。

歩行者の安全な通行を確保するため、自治会などと協議して誰もが使いやすいゆとりのある歩道の整備や道路の無電柱化など、交通安全施設の整備を推進します。

生活関連経路（駅、官公庁施設、病院などを相互に連絡する道路）における危険箇所、問題点などについて、現地調査を含め、利用者の声を聞きながら順次改善を図ります。

あらゆる利用者にとって、見やすく分かりやすい道路標識などの整備を推進します。



## 6. 情報アクセシビリティ<sup>33)</sup>

### (1) 情報通信における情報アクセシビリティ<sup>33)</sup>の向上

#### 【現状と課題】

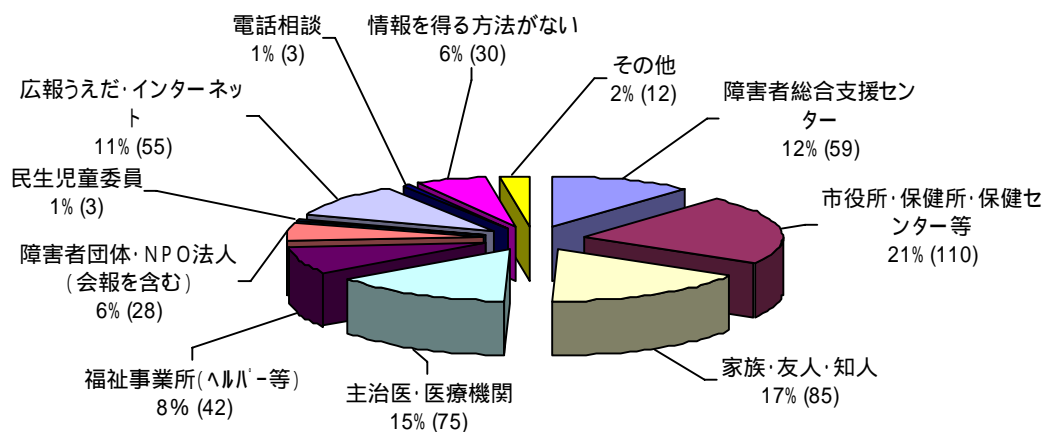
近年、スマートフォンなどの多機能携帯端末の急激な普及やフェイスブック<sup>34)</sup>に代表されるソーシャル・ネットワーキング・サービス<sup>35)</sup>により、情報交流のかたちも変化しています。

障害のある人がICT<sup>36)</sup>をコミュニケーション手段として円滑に利用できるようにするため、ICT<sup>36)</sup>に関する普及・啓発の促進や、活用しやすい情報の発信、技術の応用が求められています。

また、ICT<sup>36)</sup>を利用できない障害のある人には、個々に適した手段により格差を広げない情報提供を行うことが必要です。

#### 【障害者意向調査より】

あなたは障害福祉施策やサービスについてどこから情報を得ていますか。



34) フェイスブック 友人同士のコミュニケーションツール(連絡手段)だけではなく、ビジネスや就職活動でも使われているソーシャル・ネットワーキング・サービス。

35) ソーシャル・ネットワーキング・サービス 交友・交流関係を構築する Web サービスのひとつ。誰でも参加できる一般的な掲示板やフォーラムとは異なり、すでに加入している人からの紹介で参加できる。

36) ICT (Information and Communication Technology)...情報(Information)や通信(Communication)に関する技術の総称

## 【施策の方向性】

市ホームページを含む ICT<sup>36)</sup> システムを、障害の有無に関わらず誰もが利用しやすく理解しやすい情報伝達手段とするため、アクセシビリティ<sup>33)</sup> (日本工業規格「JIS X 8341」<sup>37)</sup>) に配慮して構築し、情報発信に活用します。

平成 23 年から運用を開始した緊急情報などのメール配信は、登録した携帯電話やスマートフォンなどで、いつでもどこにいてもリアルタイムに災害情報などを入手できることから、障害のある人へも普及促進を図ります。

上田市情報化基本計画<sup>38)</sup> に基づき検討をしている情報プラザ<sup>39)</sup> の構築に合わせ、コールセンター機能<sup>40)</sup> などにより、ICT<sup>36)</sup> を利用できない障害のある人が電話・ファックスなど使い慣れた手段でも情報入手できるよう環境の整備を図ります。

情報を入手するための普及・啓発施策として、ICT<sup>36)</sup> 機器活用の知識、技術向上のためパソコン教室、各種研修会などの開催を積極的に支援します。

障害の有無に関わらず災害情報や市政情報・地域情報をより迅速に情報を手にすることができるシステム(環境)の整備を図ります。

---

37) 日本工業規格「JIS X 8341」 JIS(日本工業規格)が定めた、「高齢者・障害のある人および一時的に障害のある人がウェブコンテンツを利用できるようにするための指針(JIS-X8341)」の第3部「ウェブコンテンツ」で使いやすいウェブコンテンツのあり方を示したガイドライン。

38) 上田市情報化基本計画 上田市の情報化を推進するために策定。計画期間：平成 24 年度～平成 27 年度

39) 情報プラザ 市民と行政のコミュニケーションを促進し、互いの信頼関係を築くための情報総合機関として構築する。

40) コールセンター機能 電話などの手軽で利用しやすい手段により、インターネットを利用する場合と同様の情報を、情報通信機器を使えない人、あるいはインターネットを利用できない状況でも入手することが可能になる。

## (2) コミュニケーション支援の充実

### 【現状と課題】

障害のある人が住み慣れた地域で安心して文化的な生活をしていくために、利用者本位の考え方に立ち、個人の多様なニーズ・生活環境に即した障害福祉サービスの提供体制の整備は、重要な施策です。

点字図書館においても、デイジー図書<sup>41)</sup>の利用は毎年増加しており、視覚障害のある人への支援も一貫して取り組むことで充実を図ってきています。

障害のある人が円滑に情報を取得・利用し、意思表示やコミュニケーションを行うことができるよう障害特性に応じた支援が必要です。

### 【施策の方向性】

障害のため、他者との意思疎通に支障がある聴覚障害者に対して、手話奉仕員・通訳者、要約筆記者の養成、派遣の実施による社会参加を促進します。

文字による情報入手が困難な障害のある人に対して、点訳・音訳により広報紙などの情報提供をします。また、意思疎通が困難な人を支援するため、絵記号などの普及や利用の促進を図ります。

視覚障害のある人の社会参加と生活の質の向上を図るため、大活字本<sup>42)</sup>の購入やテープ図書のデジタル化<sup>43)</sup>、録音図書<sup>44)</sup>の作成などを進めます。

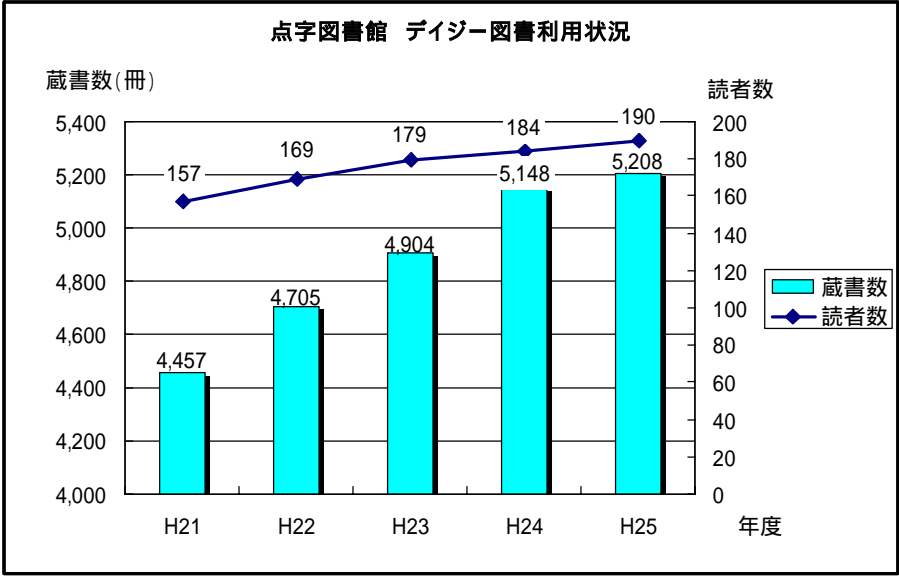
---

41) **デイジー図書** DAISY(DigitalAccessibleInformationSystem)という規格を用いたデジタル録音図書。見出しから検索して読みたい部分を読んだり、読み飛ばしたり、一般の本のような読み方ができる。

42) **大活字本** 大型活字本、拡大図書とも呼ばれ、大きな活字で印刷された図書。

43) **テープ図書のデジタル化** 劣化が進み、保存が急務となっているカセットテープに録音した視覚障害者向け「録音図書」をデジタル化し再編集し、CDに保存する。

44) **録音図書** 耳で聴いて読書できるように朗読し、その音声を収録したもの。



資料：点字図書館

## 7. 安全・安心

### (1) 防災・防犯対策の推進

#### 【現状と課題】

災害など不測の事態では、「要配慮者」<sup>45)</sup>への支援のため災害救援ボランティア活動の推進が必要です。東日本大震災を教訓として平常時から、住民一人ひとりが自分たちの住むまちは自分たちが守るというさらに高い意識を持つことが重要です。

災害基本法の改正<sup>46)</sup>により「避難行動要支援者」<sup>47)</sup>の名簿の作成が市町村長に義務付けられ、名簿作成のため自治体内部の個人情報の収集が可能となり、本人の同意を得た上で、消防、警察、民生委員などに名簿情報を提供します。併せて、市では、市内全自治会で災害時要援護者登録制度（住民支え合いマップ）の取組を進めています。

また、災害時の避難場所のバリアフリー化を進めるとともに、全国瞬時警報システム（Jアラート）が受信した緊急度の高い情報などを瞬時にかつ一斉に、障害のある人を含めすべての市民へ伝達する必要があります。

障害のある人は、犯罪や事故の被害に遭う危険性が高く、不安感も強いことから、障害のある人の気持ちに配慮した施策を行う必要があります。

近年、悪質な訪問販売や電話勧誘などの悪質商法の手口が巧妙化し、消費者被害を伴うトラブルが増加するとともに、振り込め詐欺に代表される特殊詐欺事件も後を絶ちません。

このため、地域の「安全・安心の確保」に向けて、市民の犯罪に対する意識や知識を高めるとともに、警察をはじめ地域住民、関係機関・団体などと緊密に連携し、消費者被害防止のための情報提供をはじめ、地域における防犯活動を推進する必要があります。

---

45) 要配慮者 高齢者、障害のある人、外国人、乳幼児、妊産婦などを指す。

46) 災害基本法の改正 避難行動要支援者の名簿は、災害時にはあらかじめ本人の同意がなくても提供が可能。

47) 避難行動要支援者 在宅や地域で生活をしてきた高齢者や障害のある人などのうち、避難行動や避難生活のために支援を必要とする人。

【施策の方向性】

「要配慮者」<sup>45)</sup>の把握を行い、自治会、自主防災組織、民生委員と連携し、災害時に備えた支援などの対策・体制づくりを進めます。

福祉関係者などとも連携して、上田市地域防災計画を推進するとともに、計画に沿った実践的な防災訓練を実施します。

要配慮者受入施設<sup>46)</sup>及び広域避難場所で土砂災害の恐れのある箇所への立地について、各施設の実態調査を行い、関係者間で対応を検討します。

広域避難場所のバリアフリー化の実態を把握し、整備方針を作成します。

要配慮者受入施設<sup>48)</sup>との連携を強化し、災害発生時において障害のある人などの支援が迅速に対応できる体制整備を図ります。

民生委員、自治会及び消費生活相談機関などと連携し、悪質商法などの消費者被害及び振り込め詐欺などの特殊詐欺被害に関する情報の提供と啓発を推進します。

ファックスや電子メールなどを活用して外出が困難な障害のある人が気軽に相談できる体制を構築します。

災害時要援護者登録制度（住民支え合いマップ）の取組状況

全自治会数		240 自治会					
	H24.4.1現在		H25.3.31現在		H25.9.30現在		
	自治会数	割合	自治会数	割合	自治会数	割合	
マップ取組中（協定の締結済み～）	95	39.6%	151	62.9%	184	76.7%	
マップ完成	44	18.3%	82	34.2%	107	44.6%	
マップ作成中	51	21.3%	69	28.8%	77	32.1%	
マップ未着手	145	60.4%	89	37.1%	56	23.3%	
説明会実施	12	5.0%	25	10.4%	32	13.3%	
未着手	133	55.4%	64	26.7%	24	10.0%	
計	240	100.0%	240	100.0%	240	100.0%	

資料：福祉課

48) 要配慮者受入施設 災害などが発生した場合における要配慮者の緊急受入れ施設。上田市は 13 の社会福祉法人・医療法人と災害時などにおける要配慮者の緊急受入れに関する協定書を結んでいる。

## 8. 差別の解消及び権利擁護

### (1) 障害を理由とする差別の解消の推進

#### 【現状と課題】

障害のある人を含む全ての人々にとって住み良い平等な社会づくりを進めていくため、社会全体で障害について十分な理解を深め、配慮していくことが必要です。

共生社会の実現を図る上で、障害を理由とした差別は絶対にあってはなりません。依然として差別に当たるとされる事案が存在します。一方で、障害への理解不足は、無意識のうちに差別につながることもあります。

#### 【施策の方向性】

上田市人権施策基本方針による人権の視点に立った行政の推進を図り、人権擁護と救済のため、相談・支援体制の充実や救済・保護体制の充実に努めます。

障害者差別解消法に規定されているように、障害のある人に対する権利侵害を防止し、被害からの救済を図るための仕組み<sup>49)</sup>のあり方を検討します。

上田市職員の障害に対する理解を深め、障害のある人の権利や利益を守るための「地方公共団体等職員対応要領」<sup>50)</sup>について検討を進めます。

---

49) 被害からの救済を図るための仕組み 障害者差別解消法では、障害のある人からの相談や被害からの救済を図るため、適切に対応できるような窓口の設置などを含めた体制の整備が求められている。

50) 地方公共団体等職員対応要領 障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針に即して、地方公共団体等職員が適切に対応するために必要な要領。

## (2) 虐待の防止と権利擁護の推進

### 【現状と課題】

平成 24 年 10 月に上田市虐待防止センターを福祉課窓口、各地域自治センター健康福祉課窓口に開設し、上小圏域障害者総合支援センター（上小地域障害者自立支援センター）にも通報窓口を設けました。通報があった案件に対しては速やかに対応していますが、通報や対応の遅れから事態が深刻化するケースが懸念されます。

長野県障害者権利擁護（虐待防止）センターによると、少子高齢化や核家族化にともなう障害のある子どもや高齢者の家庭内での虐待だけでなく、福祉サービス現場や職場での虐待案件も表面化してきています。

#### 障害者虐待防止センター 通報件数（H24.10～H25.6）

通報件数	17	件
うち虐待案件	8	件

虐待種別（件）	身体的虐待	性的虐待	心理的虐待	放棄、放置（ネグレクト）	経済的虐待
	3	0	2	0	4
障害種別（人）	身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	その他
	3	4	1	0	1

（重複案件あり）

資料：福祉課

障害のある人の地域移行と高齢化の進展にともない、判断能力が不十分な障害のある人の財産管理や「親亡き後」の安定した生活の確保に対する支援が求められています。

上田地域定住自立圏の取組により平成 24 年 4 月に上小圏域成年後見支援センターが開所しました。相談支援、後見人などの人材育成、後見人サポート、法人後見などの直接的な支援だけでなく、地域ネットワークを活用した支援の調整や取りまとめなど総合的な支援機能を備えることにより、必要な障害福祉サービスや支援施策につなげ、成年後見及び権利擁護の総合的な支援を行っています。

#### 平成 24 年度上小圏域成年後見支援センター相談受付件数

相談件数 983 件

対象者別	身体障害者	知的障害者	精神障害者	高齢者	65歳未満	認知症高齢者	その他	（複数回答あり）				
	32	38	124	137	12	585	55					
相談内容別	制度全般	申立手続等	申立人	後見候補等	申立・報酬費用	身上看護	財産管理	権利侵害	後見ニーズ・判断能力	状況調査・ケース調査	その他	
	146	302	137	204	70	72	176	42	97	367	268	

資料：上小圏域成年後見支援センター



【施策の方向性】

広報紙などの活用や研修会・講演会での周知により虐待防止に関する普及・啓発活動を推進します。

障害者虐待防止法に基づき、関係機関（上小圏域障害者自立支援協議会<sup>15)</sup>や上田市要保護児童対策地域協議会<sup>51)</sup>の参加機関）による情報の共有と解決に向けた検討、個別ケースへの支援や虐待ケースへの対応を迅速に行うとともに、適切な支援が行えるよう関係機関と連携し、スキルアップを図ります。

障害のある人の成年後見制度の利用を促進するため、上小圏域成年後見支援センターを中心に、成年後見制度の周知を図るとともに、市民後見人の育成と活用を図り、障害のある人などの権利の侵害や財産管理に関して適切な対応に努めます。

また、成年後見制度の利用に当たり、費用の負担が困難な人に対しては、申し立てや報酬の支払いに対する必要な経費の助成を行います。

---

51) 上田市要保護児童対策地域協議会 要保護児童（保護者のない児童又は保護者に監護させることが不適当であると認められる児童）の早期発見、適切な保護及びその健やかな育成の支援並びに推進に関することを関係機関と連携して検討する。

## 9 . 行政サービスなどにおける配慮

### ( 1 ) 行政サービスなどにおける配慮

#### 【現状と課題】

障害のある人が、行政サービスの利用に当たり適切な配慮を受けられるよう、職員自らが障害への理解を深めることが必要です。

障害のある人が、社会生活上の権利を適切に行使できるように、選挙などにおける配慮を行う必要があります。

#### 【施策の方向性】

職員などが障害に関する理解を深めるため、必要な研修を実施し、窓口などにおける障害のある人への配慮の徹底を図ります。

行政情報の提供には、情報通信技術の進展も踏まえ、アクセシビリティ<sup>33)</sup>に配慮した情報提供に努めます。

判断能力が不十分な障害のある人が自らの意思に基づき円滑に投票できるよう、代理投票制度の適切な運用など、きめ細やかな対応に心がけるとともに、個人情報の適正な取扱いに努めます。

障害のある人に優しい投票所の環境整備を推進するとともに、投票所での投票が困難な人には、不在者投票制度<sup>52)</sup>により投票機会の確保に努めます。

---

52) **不在者投票制度** 投票日に仕事や旅行など一定の予定のある人が選挙人名簿登録地以外の市区町村選挙管理委員会や病院・老人ホーム等で、投票日の前に投票をすることができる制度。身体に重度の障害があり一定の要件に該当する選挙人のために、自宅など現にいる場所で不在者投票をすることができる、「郵便等による不在者投票」の制度も設けられている。